長岡造形大学
デザイン研究
開発センター
1994－2013

Design Research and Development Center

Nagaoka Institute of Design

1994 – 2013

目次

はじめに 3
デザイン研究開発センターの概要 5
24 年度までのプロジェクト一覧 ..... 6 － 9

25 年度 受託プロジェクト報告 11
マイクロ水力発電設備の研究開発事業 ..... 12 － 15
多機能ポストのデザイン研究開発業務 ..... 16 － 17
人形関連製品のデザイン開発業務 ..... 18 － 19
もみがら炭技術を応用した関連製品のデザイン開発研究業務 ..... 20 － 21
ごみと資源物の分け方・出し方 DVD 編集・制作業務委託 ..... 22 － 23
機那サフラン酒本舗歴史的建造物調査業務 ..... 24 － 27
平成 25 年度歴史的建造物詳細調査業務委託 ..... 28 － 31
小千谷市歴史的建造物調査業務 ..... 32 － 35
清廣館建造物調査業務 ..... 36 － 39
歴史的建造物詳細調査業務委託 ..... 40 － 43

今後のデザイン開発研究について 45
プロジェクト担当教員 ..... 46 － 47
デザイン開発研究の相談について 48

はじめに

平成25年度の長岡造形大学デザイン研究開発センターの活動報告および、本センター創設から20年間の活動総括報告をいたします。

当センターは、平成6年に当時わが国で2番目の公設民営方式として開学した長岡造形大学の附属機関としてスタートしました。大学での教育研究成果を、広く行政やNPO法人などの公共性の高い機関や、民間企業など、地域の活性化に資する組織に伝える社会連携、また企業などとの共同研究を推進し、もって教育研究の発展および地域社会における創造的研究開発に寄与することを本センターの目的としていました。

平成26年3月に私立大学としての長岡造形大学は20年の役割を終え、同4月からは公立大学法人長岡造形大学へと生まれ変わりました。このため平成25年は通常のセンター業務に加え20年間の総括を行いつつ、それを踏まえて公立大学へと生まれ変わるための準備を進めるという、これまでにない1年間でありました。その総括の結果は平成26年4月からの新体制に引き継がれました。

20年の総括は、受託事業に大きなエネルギーを割いたことで個別具体的にはセンターの目的と達成したと考えます。製造業関係の共同研究体制については県央地域などで一定の成果が見られつつも、より多くの地域で定着、拡充したとは言えず、この点についてはまだまだ満足な成果が上がっておりません。一方で文化財調査については調査研究の本数が多いのが本センターの特徴の一つで、その後国指定登録有形文化財になり、まちづくりの核施設になるなど一定の効果が現れています。

本センターがその目的を達成する先に、デザインを取り入れた産業の発展とこれに合わせた地域社会の充実があるとするならば、センターと社会連携の間に生まれた知的財産の有効活用、応用、発展が進むのが理想です。新体制では、この点を考慮した体制の整備に腐心しております。

さて、デザイン研究開発センターとして受託した最後の年度である平成25年度の受託研究プロジェクト本数は10本です。委託いただいたクライアントの皆様方には深く感謝いたします。この研究成果を是非とも有意義なものに活用･発展させていただきたいと願っております。

平成27年3月

長岡造形大学
地域協創センター長
渡　辺　誠　介

これまでの活動

デザイン研究開発センターの概要

当センターは、平成 6 年に開学した公設民営方式大学である長岡造形大学の附属機関としてスタートしました。大学での教育研究成果を地域社会へつなげる社会連携の窓口として邁進してきた 20 年間でした。

主なクライアントは、公設民営方式で誕生した背景もあり行政からの委託が中心的である一方、新潟県内の製造業からの委託も大きな比率を占めいています。また文化財建造物所有者等からの調査依頼も近年着実に増加しています。調査の結果、文化財としての登録、そしてこれらを核としたまちづくりへの展開に発展することに行政が支援する事例も生まれています。個別空間の点から地域という面に地域づくりを展開する小さなエンジンとして貢献ができたのも本センターの側面の一つです。

デザインについての社会が持つイメージも 20 年の間に変化しています。機能性やカタチを担保する最終製品としてのプロダクト製品をイメージする、狭義のデザインであるモノの時代がありました。そして、企画、広報などのブランディングや仕組みまで含むコトの時代がありました。センター開設時はちょうどコトのデザインを地方でいかに生み出すか模索していた時期に当たるかと思います。そして、近年では従来からデザインの基本であった PDCA サイクルをあらゆる分野、例えば経営の場面などでも活用させようという、デザイン思考の広範囲の応用や、市民参加、まちづくりまでの長期スパンの社会変革にまで応用しようとする時代になっています。

本センターのプロジェクトの変遷をみると、上記の時代の変化への対応と本学のプレゼンスを地域社会にいかにして訴求するかという苦闘の歴史が見えます。平成 6 年から 20 年間を特徴的に分けると大きく 3 期に分かれます。すなわち、平成 6 年から 13 年まで行政主導からの摸索期、平成 14 年から 21 年までの受託事業件数増大期、平成 22 年から 25 年までの受託案件厳選化期です。

本センターの特徴として、文化財関係は調査研究が主ですが、他はデザイン制作を受託する割合が多く、コンサルティング業務、共同研究は散発的なものでした。しかしデザイン制作の受託に関しては、デザイン産業育成の観点からも闇雲な受託ではなく大学としての社会連携の方針が必要でした。

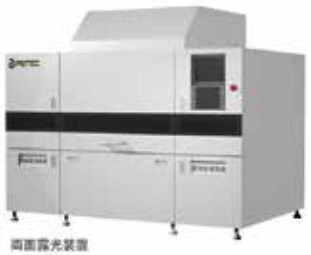
また、共同研究は成果を得るために中長期的な取り組みが必要とされ、このためには例えば大学院との連携充実など、大学としての体力向上も必要とされます。さらに共同研究では生み出された知的財産の取り扱いや管理運営方法についても組織的に対応する必要があります。

平成 26 年度に公立大学法人へ体制が移行することを前提に、上記の課題を規定するポリシーと規程の準備が進められました。新体制ではこの新ポリシーに基づいた新しいデザイン開発研究として社会連携が始まります。

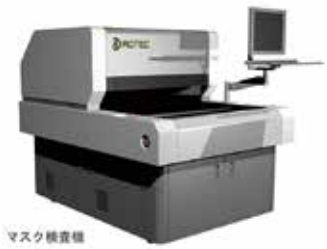
24年度までの
プロジェクト一覧

年 度		プロジェクト名	プロジェクト主査	委託者
平成 6 年度	1	長岡市サイン計画	鎌田 豊成	長岡市
	2	長岡地域戦略プラン	川崎 晃義	長岡市
	3	新潟港直江津港マーク	神田 昭夫	新潟県港湾空港局
	4	古正寺町槇下線広場設計	内藤 恒方	長岡市
平成 7 年度	1	長岡市サイン計画	鎌田 豊成	長岡市
	2	長岡地域戦略プラン	川崎 晃義	長岡市
	3	富士通プロジェクト	松丸 武	富士通㈱
	4	体育協会シンボルマーク	神田 昭夫	長岡市体育協会
平成 8 年度	1	新仏壇プロジェクト	清水 吉治	長岡地域仏壇協同組合
	2	坂井公園（仮称）整備基本設計及び実施設計策定業務	内藤 恒方	長岡市
	3	富士通プロジェクト	松丸 武	富士通㈱
	4	南魚沼郡地域デザイン研究開発	渡辺 誠介	㈱北日本開発
	5	鋳物プロジェクト	和田 裕	中越鋳物青年研究会
平成 9 年度	1	国営越後丘陵公園シンボルマーク及びグラフィックコントロールマニュアル作成業務	神田 昭夫	㈶公園緑地管理財団
	2	商品開発手法（仮説）の有効性に関する検証研究	松丸 武	新潟県工業技術総合研究所
	3	南魚沼地域農村快適環境整備調査	渡辺 誠介	㈱北日本開発
	4	坂井公園（仮称）整備工事監理業務	内藤 恒方	長岡市
平成 10 年度	1	南魚沼地域農村快適環境整備調査	横山 浩	㈱北日本開発
	2	長岡市モール整備基本計画	横山 浩	長岡市
	3	栃尾市雁木実態調査	横山 浩	栃尾市
	4	コンセプトのデザイン化に関する研究	松丸 武	新潟県工業技術総合研究所
	5	長岡市サイン計画	鎌田 豊成	長岡市
平成 11 年度	1	デザイン開発手法の調査研究	松丸 武	新潟県工業技術総合研究所
	2	石谷邸保存	宮澤 智士	鳥取県智頭町
	3	地上式灯油ホームタンクのデザイン作成	和田 裕	石油連盟
	4	景観に配慮したプロダクトデザインの研究	松丸 武	長岡デザイン研究会
	5	日本銀行新潟支店長宅価値調査	宮澤 智士	新潟市
平成 12 年度	1	新潟県立歴史博物館開館特別展会場造形業務	神田 昭夫	新潟県立歴史博物館
	2	「石谷邸」整備事業報告書策定業務	宮澤 智士	鳥取県智頭町
	3	「植木鉢支え」の市場調査とデザイン開発	川崎 晃義	新潟県三条市
平成 13 年度	1	長岡市歴史的建造物調査	宮澤 智士	長岡市
	2	バイオマスエネルギーストーブのデザインと開発	赤沼 潔	㈲暖談森社
	3	橋本市中心市街地伝統的町並み調査	平山 育男	和歌山県橋本市
	4	橋本市中心市街地伝統的町並み補足調査	平山 育男	和歌山県橋本市
平成 14 年度	1	繊維・木工研究会コーディネート業務	松丸 武	㈶信濃川テクノポリス開発機構
	2	旧榊原家（遊佐町語りべの館）解体組立に関する調査研究および学術報告書作成	宮澤 智士	山形県遊佐町
	3	合掌造民家園旧中野義盛家住宅修理工事報告書作成および合掌造民家研究	宮澤 智士	㈶白川村緑地資源開発公社
	4	松籟閣登録調査	平山 育男	朝日酒造㈱
	5	歴史的建造物調査業務	宮澤 智士	長岡市
	6	有形文化財等基礎調査委託	平山 育男	国分寺市
	7	食卓周辺用品の新製品開発	土田 知也	日本金属洋食器工業組合
	8	東京電力カムフィークリスマス展示	新海 俊一	東京電力㈱
	9	スキューバ工具、フラワーナイフデザイン開発	和田 裕	小林工具製作所㈱
	10	南魚沼郡公共・観光施設バリアフリー対応度調査	平井 邦彦	新潟県
	11	ながおか市民センター館内装飾業務	森 望	長岡市
平成 15 年度	1	移乗機能を有する車椅子のデザイン研究開発業務	土田 知也	㈱近藤製作所
	2	有形文化財等基礎調査委託	平山 育男	国分寺市
	3	木造住宅屋切部装飾品デザイン開発業務	馬場 省吾	㈱ハラダ
	4	体験モニターによるバリアフリー観光ルート作成業務	平井 邦彦	新潟県
	5	ステンレス製生活用品デザイン開発業務	土田 知也	㈱ダイシン製作所
	6	長岡まなびの場整備基礎調査業務	平井 邦彦	新潟県
	7	ガーデニング用品新製品開発業務	土田 知也	日本金属洋食器工業組合
	8	医療用レーザー装置ハンドピースデザイン開発業務	和田 裕	㈱ニーク
	9	ながおか市民センター館内装飾業務	森 望	長岡市
	10	TEPCO プラザ柏崎 Comfy クリスマスデコレーション委託業務	新海 俊一	東京電力㈱
	11	統合小学校等用地造成基本設計業務	後藤 哲男	和島村
	12	新潟銘醸リノベーションプロジェクト No.1	新海 俊一	新潟銘醸㈱

平成 16 年度／ 次世代向ファンヒーターのデザイン提案

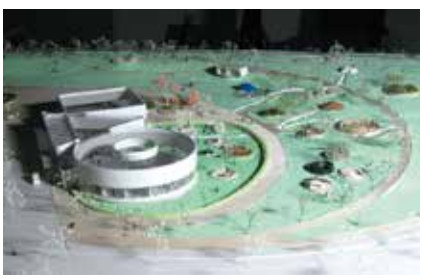


平成 17 年度／ 自動露光装置デザイン委託



年度		プロジェクト名	プロジェクト主査	委託者
平成16年度	1	有形文化財等基礎調査委託	平山 育男	国分寺市
	2	統合小学校等用地造成実施設計業務	後藤 哲男	和島村
	3	統合小学校建物等基本設計業務	後藤 哲男	和島村
	4	新潟銘醸リノベーションプロジェクト No.2	新海 俊一	新潟銘醸㈱
	5	紙技プロジェクト業務	土田 知也	安達紙器工業㈱、北越製紙㈱
	6	越後丘陵公園サマーナイトライトアッププロジェクト	新海 俊一	国営越後丘陵公園
	7	工業デザインのコンサルタント指導	松丸 武	㈱ニイガタマシンテクノ
	8	空気清浄機（脱臭機）のデザイン開発業務	和田 裕	荏原実業㈱
	9	地域らしさの背景に浮かぶ美しい集合住宅の提案	山下 秀之	ダイエープロピス㈱
	10	雪止め金具デザイン業務	馬場 省吾	㈱ハラダ
	11	次世代向ファンヒーターのデザイン提案	和田 裕	ダイニチ工業㈱
	12	震災復旧ビジョン調査業務	平井 邦彦	新潟県
	13	地域学習のモデル事例調査・発信事業委託	渡辺 誠介	新潟県
平成17年度	1	有形文化財等基礎調査委託	平山 育男	国分寺市
	2	工業デザインのコンサルタント指導	松丸 武	㈱ニイガタマシンテクノ
	3	巻町『鯛車』復活プロジェクト	澤田 雅浩	巻町観光協会
	4	長岡東山福祉会新拠点施設建設プロジェクト「新拠点施設建設計画の事前調査・研究業務」	新海 俊一	社会福祉法人長岡東山福祉会
	5	自動露光装置デザイン委託	土田 知也	㈱アドテックエンジニアリング
	6	サマーナイトプレゼンツ 2005	新海 俊一	㈶公園緑地管理財団
	7	桐生本町たてものデザイン集大成に関する調査	木村 勉	本一本二まちづくりの会
	8	橋本市中心市街地伝統的町並み調査業務	平山 育男	和歌山県橋本市
	9	富曽亀小学校統合50周年記念事業モニュメント制作	赤沼 潔	富曽亀小学校統合50周年記念事業実行委員会
	10	CRS-SOLOに関するブランドマーク・ロゴタイプ・品番の表示デザイン	松丸 武	永田精機㈱
	11	口腔洗浄器デザイン開発業務	和田 裕	ニイガタ機電㈱
	12	津南中等教育学校校章デザイン・マニュアル作成業務	福田 毅	新潟県立津南中等教育学校
	13	携帯用温熱器デザイン開発業務	土田 知也	㈱ケネックス
	14	RtoR露光機、両面自動露光装置及びマスク外観検査装置デザイン制作業務	土田 知也	㈱アドテックエンジニアリング
	15	包丁研ぎ器デザイン設計業務	境野 広志	㈱片岡製作所
	16	長岡高等学校昭和40年卒同窓会還暦記念品作成業務	福田 毅	長岡高等学校昭和40年卒同窓会幹事会
	17	工業デザインのコンサルタント指導（後期）	松丸 武	㈱ニイガタマシンテクノ
	18	新型介護ベッドデザインコンサルタント指導業務	土田 知也	末広産業㈱
	19	ガラスマスク外観検査装置デザイン制作業務	土田 知也	㈱アドテックエンジニアリング
	20	ワイヤレスキー送信機のデザイン開発	和田 裕	㈱東海理化電機製作所
平成18年度	1	長岡東山福祉会新拠点施設建設プロジェクト「新拠点施設基本設計業務」	新海 俊一	長岡東山福祉会かつぼ園
	2	工業デザインのコンサルタント指導	松丸 武	㈱ニイガタマシンテクノ
	3	橋本市中心市街地伝統的町並み調査業務	平山 育男	和歌山県橋本市
	4	和島統合（仮称）小学校新築工事実施設計委託	後藤 哲男	長岡市
	5	コンパクト収納防災ヘルメット	松丸 武	㈱香彩堂
	6	複合専用加工機開発に係るデザインコンサルタント	松丸 武	㈱研精舎
	7	低タンパク米を食事制限者向けに電解質を低減させた災害用アルファー米の開発	松丸 武	㈲エコ・ライス新潟
	8	イメージCGを使用した店舗空間初期デザイン業務	藤澤 忠盛	原商㈱
	9	マンション等における空間デザインのコンサルタント指導業務	藤澤 忠盛	㈱えびすや
	10	長岡技術科学大学語学センター2階展示室改修設計	豊口 協	国立大学法人長岡技術科学大学
	11	レスキューフーズ・デザインプロジェクト	鎌田 豊成	ホリカフーズ㈱
	12	星野家住宅調査委託	平山 育男	長岡市
	13	セントラル換気システムロゴシールデザイン制作業務	土田 知也	ジェイベック㈱
	14	長岡市都市景観賞銘板製作業務	赤沼 潔	長岡市
	15	伝統的建造物保存対策調査委託「山崎家住宅離れ」	木村 勉	埼玉県川越市
	16	長岡駅前市民プランターデザイン制作業務	和田 裕	長岡市花いっぱいフェア開催協議会
	17	長岡市山古志地域景観ガイドライン策定業務（その1）委託	上野 裕治	長岡市
	18	工業デザインのコンサルタント指導	松丸 武	㈱ニイガタマシンテクノ
	19	ソピアライト・パンフレットデザイン制作業務	藤澤 忠盛	㈱えびすや
	20	窓枠物干しデザイン制作業務	境野 広志	オークス㈱
	21	店舗ディスプレイデザイン業務	森 望	ネッツトヨタ越後㈱
	22	ごみと資源物の分け方・出し方及び処理方法周知用ビデオ制作業務	ヨールグ ビューラ	長岡市
	23	長岡市立北中学校創立60周年記念事業校庭整備デザイン業務	上野 裕治	長岡市立北中学校創立60周年記念事業実行委員会
	24	レスキューフーズ・デザインプロジェクト	鎌田 豊成	ホリカフーズ㈱
	25	山古志地域復興感謝記念歌碑デザイン制作業務	馬場 省吾	復興感謝記念事業実行委員会
	26	新正門デザイン業務	森 望	倉敷機械㈱

平成17年度／ 津南中等教育学校校章デザイン・マニュアル作成業務



平成18年度／ 長岡市都市景観賞銘板製作業務

平成20年度／ 千秋が原南公園（仮称）全天候型施設（現：子育ての駅 千秋 てくてく） 遊具等実施設計業務

年度		プロジェクト名	プロジェクト主査	委託者
平成19年度	1	アルビレックス新潟の選手を起用したCM制作業務	鎌田 豊成	㈱新潟日報社
	2	千秋が原南地区公園デザイン設計業務	山下 秀之	㈱グリーンシグマ
	3	千秋が原地区全天候型施設デザイン設計業務	山下 秀之	㈱長建設計事務所
	4	巻「鯛車」復活プロジェクト	澤田 雅浩	巻観光協会
	5	新規ブランドマークデザイン及び新規アプリケーションデザイン（3点）	松丸 武	㈱難波製作所
	6	信濃川桜づつみデザイン検討業務	山下 秀之	長岡市
	7	工業デザインのコンサルタント指導	松丸 武	㈱ニイガタマシンテクノ
	8	被災現場の記録・保全その1	平井 邦彦	㈳中越防災安全推進機構
	9	長岡東山福祉会新拠点施設建設プロジェクト「新拠点施設実施設計業務」	新海 俊一	社会福祉法人長岡東山福祉会かつぼ園
	10	“LED卓上ライト”デザイン提案業務	土田 知也	㈱和田助製作所
	11	復興支援ミュージカル・パンフレットデザイン制作業務	福田 毅	ATNオフィス
	12	宿根木地区見直し調査業務委託	木村 勉	佐渡市
	13	歴史的建造物調査業務委託	平山 育男	長岡市
	14	レスキューフーズ・デザインプロジェクト2	鎌田 豊成	ホリカフーズ㈱
	15	見附市市野坪町における新規住宅地街区計画策定の検討業務	山下 秀之	見附市
	16	一般国道291号線越後闘牛街道エントランス整備案内板デザイン検討業務	鎌田 豊成	新潟県長岡地域振興局
	17	えびすやデザインソリューション	藤澤 忠盛	㈱えびすや
	18	異素材ミックス（ニットと布帛の複合）による製品の開発	鈴木 均治	栃尾織物工業協同組合
	19	摂田屋地区街なみ環境整備方針策定業務委託	渡辺 誠介	長岡市
	20	小千谷市闘牛場駐車場周辺環境整備業務	上野 裕治	㈱北陸建設弘済会
	21	にいがた狼煙プロジェクトのぼり制作業務	鈴木 均治	新潟県観光復興戦略会議
	22	にいがた狼煙プロジェクトマップカレンダー制作業務	福田 毅	新潟県観光復興戦略会議
	23	山古志闘牛場改修デザイン業務委託	山下 秀之	長岡市
	24	四日市南高等学校創立50周年記念モニュメント制作業務〈Ⅰ期〉	長谷川 克義	三重県立四日市南高等学校創立50周年記念事業実行委員会
	25	橋本市中心市街地伝統的町並み調査業務	平山 育男	和歌山県橋本市
	26	みしま中央保育園園旗デザイン制作業務	長谷川 博紀	社会福祉法人はなみずき福祉会みしま中央保育園
	27	日赤千秋会キャンペーンポスター制作業務	長谷川 博紀	日赤千秋会
	28	天地人「地域活性化シーズ」プロデュース事業業務	渡辺 誠介	大河ドラマ「天地人」南魚沼実行委員会
	29	ごみと資源物の分け方・出し方及び処理方法周知用ビデオ編集・制作業務	ヨールグ ビューラ	長岡市
	30	一般国道291号越後闘牛街道エントランス整備案内板詳細設計委託	山下 秀之	エヌシーイー㈱
	31	おりなすブランドマークデザイン制作業務	鈴木 均治	財団法人栃尾織物協会
	32	工業デザインのコンサルタント指導	松丸 武	㈱ニイガタマシンテクノ
	33	カーポートのデザイン提案業務	森 望	㈱関根製作所
	34	「大根立て」による切干し大根の製品パッケージデザイン業務	鎌田 豊成	㈱大沢加工
	35	千秋が原南公園（仮称）模型制作業務	山下 秀之	長岡市
	36	山古志闘牛場マスタープラン作成業務	山下 秀之	長岡市
	37	スマートソピア・ドアコレクションデザイン提案業務	藤澤 忠盛	㈱えびすや
平成20年度	1	和島小学校校舎新築工事監理委託	後藤 哲男	長岡市
	2	「越後闘牛街道」エントランス整備事業 案内サイン製作設置業務	山下 秀之	新潟県長岡地域振興局
	3	塩沢・牧之通り照明計画	新海 俊一	牧之通り組合
	4	巻「鯛車」復活プロジェクト	澤田 雅浩	巻観光協会
	5	工業デザインのコンサルタント指導	松丸 武	㈱ニイガタマシンテクノ
	6	四日市南高等学校創立50周年記念モニュメント制作業務〈Ⅱ期〉	長谷川 克義	三重県立四日市南高等学校創立50周年記念事業実行委員会
	7	本町一、二丁目地区伝統的建造物群保存対策調査（環境物件）委託	木村 勉	群馬県桐生市
	8	新潟写真文化賞トロフィー制作業務	長谷川 克義	新潟写真文化賞実行委員会
	9	被災現場の記録・保全その2	平井 邦彦	㈳中越防災安全推進機構
	10	トキめき新潟国体ミニ炬火台制作業務	長谷川 克義	新潟県
	11	西部丘陵東地区環境共生アドバイザリー業務委託	上野 裕治	長岡市
	12	摂田屋地区街なみ環境整備事業計画検討業務委託	渡辺 誠介	長岡市
	13	見附市柳橋町における新規住宅地街区計画策定の検討業務	山下 秀之	見附市
	14	星野本店社屋等歴史的建造物調査	平山 育男	㈱星野本店
	15	吉乃川㈱ 常蔵 歴史的建造物調査業務	平山 育男	吉乃川㈱
	16	ピストンリング形状測定器の新規デザイン業務	松丸 武	㈱第一測範製作所
	17	研磨装置デザイン業務	土田 知也	㈱サンシン
	18	歴史的建造物調査業務委託	平山 育男	長岡市
	19	田上商店倉庫歴史的建造物調査	平山 育男	㈱高田建築事務所
	20	トキめき新潟国体ミニ炬火台制作業務2	長谷川 克義	新潟県
	21	㈱越のむらさき 歴史的建造物調査	平山 育男	㈱越のむらさき
	22	長谷川酒造㈱ 歴史的建造物調査	平山 育男	長谷川酒造㈱
	23	ビデオドキュメンタリー『新ものづくり見学ツアー』制作業務	ヨールグ ビューラ	㈳新潟県経営者協会
	24	50カ国の【愛】デザイン制作委託業務	渡辺 誠介	新潟県南魚沼地域振興局
	25	千秋が原南公園（仮称）全天候型施設遊具等実施設計業務	山下 秀之	長岡市
	26	和島小学校講堂（地域交流館）新築工事監理	後藤 哲男	長岡市
	27	鉄道廃線敷沿道の景観整備参加活動業務委託	福田 毅	長岡市
	28	越後杉を活用した積木遊具のデザイン提案業務	小林 花子	㈱重川材木店
	29	朝日新聞新潟版新年連載の元旦紙面 レイアウトデザイン業務	福田 毅	朝日新聞新潟総局
	30	山古志闘牛場改修 調査測量設計業務	山下 秀之	大原技術㈱
	31	与板まちづくりコーディネート業務	福田 毅	長岡市
	32	味噌星六 歴史的建造物調査	平山育男	㈲味噌星六
	33	千秋が原南公園（仮称）全天候型公園施設サイン・ロゴ・パンフレット等デザイン制作業務	山下 秀之	長岡市
	34	トキめき新潟大会閉会式炬火台デザイン・実施設計業務	馬場 省吾	新潟県
	35	平成20年度良好な景観･まちなみ形成に資する建築景観のモデルスタディ業務（山古志地域景観保全事業）	上野 裕治	㈱都市環境研究所

年度		プロジェクト名	プロジェクト主査	委託者
平成21年度	1	長岡防災シビックコア地区サイン計画策定業務	吉川 賢一郎	長岡市
	2	巻「鯛車」復活プロジェクト	澤田 雅浩	巻観光協会
	3	中心市街地歴史的建造物調査業務	平山育男	三条市
	4	カーポートデザイン開発業務	土田 知也	三和エクステリア新潟工場㈱
	5	歴史的建造物調査業務委託	平山 育男	長岡市
	6	西部丘陵東地区環境共生アドバイザリー業務委託	上野 裕治	長岡市
	7	長岡技術科学大学CIデザイン制作に係る監修業務	福田 毅	国立大学法人長岡技術科学大学
	8	和島小学校屋内運動場・プール新築工事監理委託	後藤 哲男	長岡市
	9	摂田屋地区案内サイン計画策定業務	渡辺 誠介	長岡市
	10	2連目盛温湿度計デザイン業務	土田 知也	シンワ測定㈱
	11	吉ヶ平周辺施設整備に係る企画デザイン業務	上野 裕治	三条市
	12	長岡市都市景観賞銘板製作業務	長谷川 克義	長岡市
	13	大崎浄水場建造物詳細調査業務	平山 育男	三条市
	14	子育ての駅施設整備に係る備品等選定業務	山下 秀之	長岡市
	15	坂戸地区 地域復興デザイン策定支援事業	渡辺 誠介	南魚沼市 坂戸区
	16	弥彦観光資源PRプロジェクト	澤田 雅浩	弥彦村観光協会
	17	上着掛け付スラックスハンガーデザイン提案業務	土田 知也	ニイガタ機械㈱
	18	子育ての駅施設サイン・ロゴ・パンフレット等デザイン制作業務	福田 毅	長岡市
平成22年度	1	修景事業推進業務	渡辺 誠介	長岡市
	2	国営越後丘陵公園 里山自然館外構検討部会支援業務	上野 裕治	パシフィックコンサルタンツ㈱（里山自然館利活用検討委員会事務局）
	3	建具デザイン業務	金澤 孝和	小河建具店
	4	歴史的建造物調査業務委託	平山 育男	長岡市
	5	旧民俗資料館（手仕事手ほどき館）建物痕跡史実調査委託	平山 育男	住まい空間研究所
	6	学童用机・椅子の商品化のための商品開発業務委託	後藤 哲男	長岡家具協同組合
	7	花束用メッセージカードデザイン業務委託	長谷川 博紀	星野㈱
	8	燕市旧配水塔詳細調査業務委託	平山 育男	燕市
	9	平成22年度 坂戸地区 地域復興デザイン策定支援事業	渡辺 誠介	南魚沼市坂戸行政区
	10	長岡工業高等専門学校ロゴマーク審査、修正業務委託	吉川 賢一郎	長岡工業高等専門学校
	11	理美容用ハサミデザイン業務委託	長谷川 克義	モトコマ㈱
	12	国営越後丘陵公園「（仮称）里山自然館」における内装デザイン設計業務	山下 秀之	パシフィックコンサルタンツ㈱（里山自然館利活用検討委員会事務局）
	13	刈谷田川防災公園 モニュメントデザイン検討業務委託	馬場 省吾	新潟県長岡地域振興局
	14	平成22年度農業用水水源地域保全対策事業信濃川左岸土地改良区地形模型製作業務委託	平山 育男	信濃川左岸土地改良区
	15	中条RC創立50周年記念モニュメントデザイン監修業務	小林 花子	中条ロータリークラブ創立50周年記念実行委員会
	16	小国和紙用途開発プロジェクト	土田 知也	㈲小国和紙生産組合
平成23年度	1	建具・生活小物デザイン業務	金澤 孝和	小河建具店
	2	歴史的建造物調査業務	平山 育男	長岡市
	3	ロシア市場向けの新商品試作品デザイン開発業務	土田 知也	日本金属ハウスウェア工業組合
	4	摂田屋地区まちづくり事業計画策定等業務	渡辺 誠介	長岡市
	5	桃山邸調査業務委託	平山 育男	社会福祉法人長岡三古老人福祉会
	6	旧島田小学校調査業務委託	平山 育男	社会福祉法人長岡三古老人福祉会
	7	長岡市西部丘陵東地区文化・教育ゾーン整備イメージ図作成業務委託	上野 裕治	長岡市
	8	小国和紙用途開発事業	土田 知也	小国和紙用途開発研究会
平成24年度	1	ごみと資源物の分け方・出し方DVD編集・制作業務	ビューラ	長岡市
	2	新潟写真文化賞トロフィー制作業務	長谷川 克義	新潟写真文化賞実行委員会
	3	小千谷市歴史的建造物調査業務	平山 育男	小千谷市
	4	新潟日報メディアシップ内ギャラリー＆カフェデザイン業務	森 望	新潟日報社
	5	長岡市都市景観賞銘板制作業務	長谷川 克義	長岡市
	6	見附市新規住宅地街区基本設計業務	上野 裕治	見附市
	7	新潟薬科大学ロゴの制定及び利用マニュアルの策定業務	吉川 賢一郎	新潟薬科大学
	8	投影型測長器のデザイン研究開発業務	土田 知也	近藤製作所
	9	脳神経外科手術用マイクロチェア研究開発業務	和田 裕	瑞穂医科工業
	10	歴史的建造物詳細調査業務	平山 育男	長岡市
	11	ステンレス製生活用品のデザイン研究開発業務	土田 知也	ダイシン製作所
	12	ライオン㈱ブース展示物のイラストレーション制作業務	長谷川 博紀	創文
	13	産業遺産調査研究業務	和田 裕	特定非営利活動法人ふれあいパーク久賀美
	14	長岡市政策報告集デザイン業務	豊口 協	長岡市
	15	歴史的建造物詳細調査業務委託	平山 育男	三条市

※委託者名は全て受託当時のもので記載

平成20年度／ 和島小学校校舎新築工事監理委託

平成22年度／ 国営越後丘陵公園「（仮称）里山自然館」における
内装デザイン設計業務

平成24年度／ 左：投影型測長器のデザイン研究開発業務
右：ステンレス製生活用品のデザイン研究開発業務

25年度
受託プロジェクト報告

受託事業名：

マイクロ水力発電設備の研究開発事業

※所属等はプロジェクト当時のもの

発注者：株式会社大原鉄工所
受託期間：平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日
プロジェクト主査：和田裕（学長・教授）
プロジェクトメンバー：長岡造形大学職員 金峯洙、修士課程 1 年 菊池瞬

1. プロジェクト概要

本件は、バイオガス発電設備やリサイクル機器などの環境設備、南極観測や自衛隊の活動を目的とした専用雪上車などの幅広い製品製造を手がける株式会社大原鉄工所（長岡市）（以下、「大原鉄工所」）が、水路を利用した省エネルギー型の「小水力発電設備」の開発を行うプロジェクトにおいて、本学がデザイン面で協力を行ったものである。

当プロジェクトは、長岡市が地域産業のエネルギー分野への進出促進を図る目的で助成する「長岡市新エネルギー開発支援補助金」の採択を受け、3 ヵ年にわたり産学官が協働して開発に取り組むものである。また、プロジェクトで製作した小水力発電設備の試作を、長岡市内の農業用水路に設置し、実証実験を経て、量産販売につなげる計画である。

当プロジェクトにおける本学の業務内容は以下のとおりである。

(1) 水車デザイン
　機構、外装、安全対策、環境対応へのデザイン提案及びコンサルティング業務
(2) シミュレーション検討
　CG 等による設置シミュレーションの検討

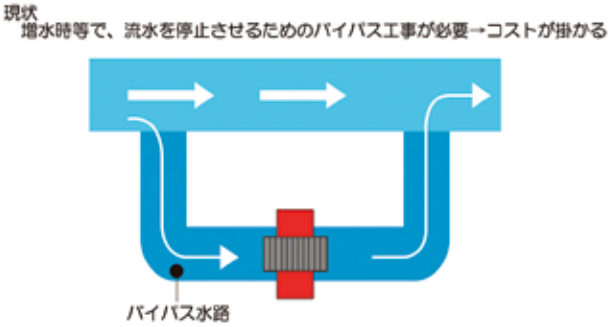


図 1　従来のバイパス水路設置イメージ

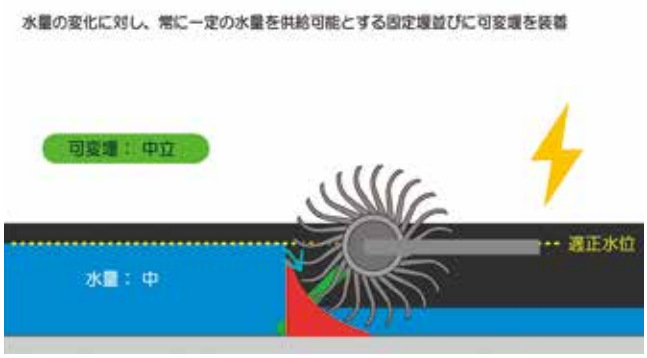


図 2　可変堰による水調整のイメージ

2. 小水力発電設備の概要

本プロジェクトで開発する小水力発電装置は、出力 200KW 以下の小規模発電システムであり、従来の開放水路設置型で水路の満水時やメンテナンスを行う際に水車に流水を遮断するために、バイパス（迂回）水路を設ける必要があったものを、引き上げ架台及び昇降装置を設け、水車を水路上部に引き上げることにより、バイパス水路の設置を不要とし、従来と比較し大幅なイニシャル及びランニングコストの低減を実現するものである。

■装置の特徴

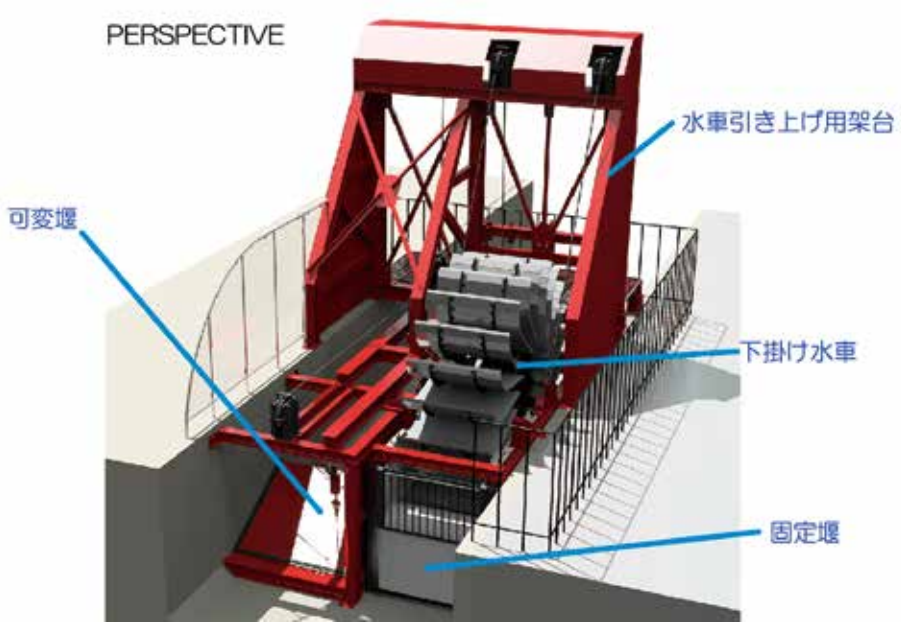
(1) 水車の手前に固定堰を設けることで落差を発生させ、落差のない水路でも水車の稼動が可能となる。
(2) 水車全体を引き上げる機構により、満水時に水車を水路から引き上げ回避することができる。（バイパス水路の設置が不要）（図 1 参照）
(3) 水車に並列に設置する可変堰により、適正水位を保つための水量調整が可能となる。（図 2 参照）

3. 装置のデザインコンセプト

当プロジェクトにおける装置デザインは、当該装置の立地条件が中山間地から平地の田園が見込まれることから、「環境配慮」という観点が求められた。これを踏まえ、以下の点を機構、外装のデザインに取り入れ、提案を行った。（図 3 ～ 6 参照）

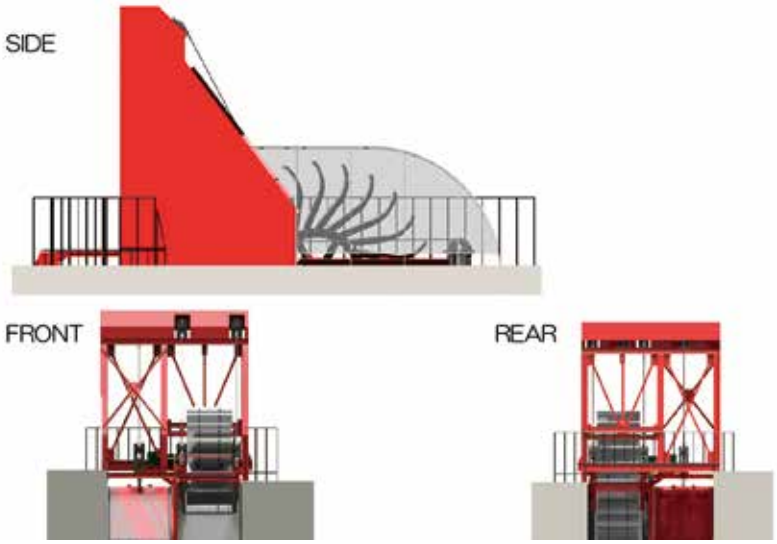
（1）環境との調和
　水路を設置する周囲の田園風景に配慮した装置等のデザインであり、まちづくりに貢献できること
（2）環境設備のアピール
　水車形状を生かし、発電設備であることを見える化することで、環境保全への配慮をアピールすること

装置のデザイン制作にあたり、実証実験を行う現場調査を行い、立地環境を踏まえた上で検討を行った。また、現地での設置状況について CG を使って表し、デザイン班と製作班で完成形の共有を図った。



水車引き上げ架台、下掛け水車、固定堰、可変堰の各パーツの機能性を保ち、全体としてコンパクトにまとめ上げた。

図３　外装パース図



水路の有効幅員を最大限活かしつつ、幅・高さともに効率的なサイズを実現した。

安全管理の観点から柵や防護壁を設けるとともに、装置全体との調和を図った。

図４　外装立面図
（正面、背面、側面）

バイパス水路の設置を省くことができ、従来と比較し容易に装置が設置できる。

図５　装置設置イメージ

試作機設置場所（長岡市柿町／東大新江用水路）

装置のカラーリングについて複数案提案し、前記のデザイン要素「環境との調和」及び「環境設備のアピール」を考慮し、赤系統を選定した。

四季により表情の異なる田園風景の絶妙なアクセントとなり、存在感のある色調となった。

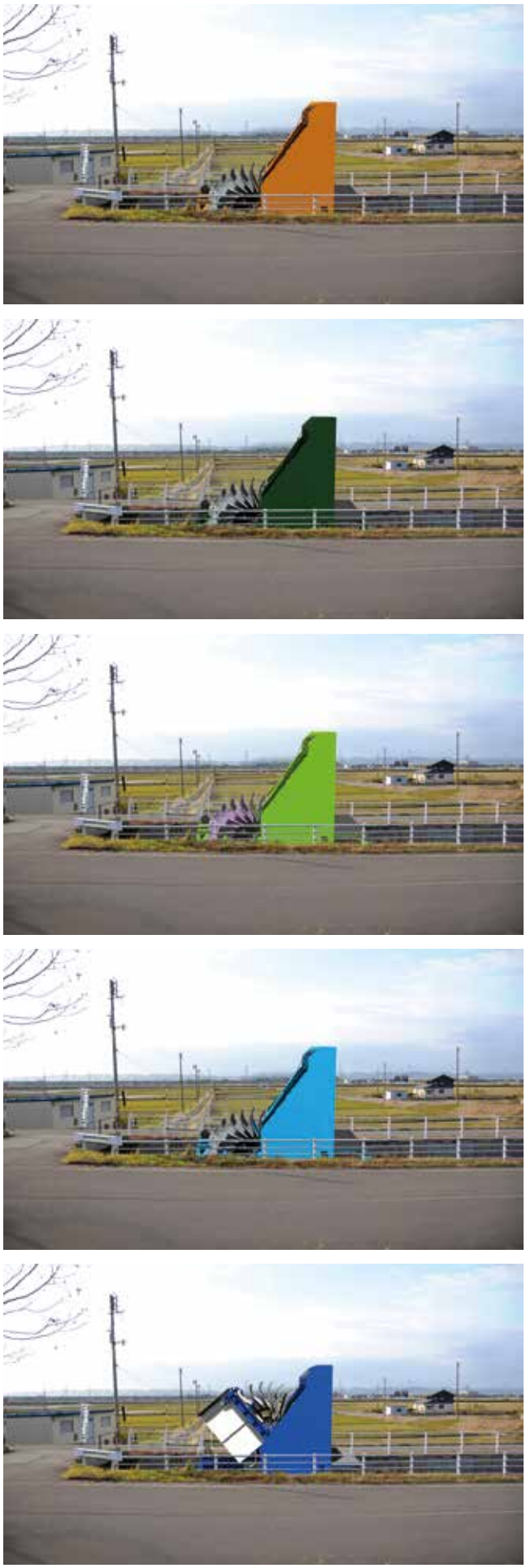


図６　装置のカラーリング提案

4. 試作機の設置

大原鉄工所を主体とし、長岡市及び本学が協力し進めてきた当プロジェクトにて試作機が完成し、平成 27 年 1 月から概ね 1 年間の実証実験を開始した。実験開始日には大原鉄工所、長岡市及び本学の関係者が立会い、設置された装置についての説明等が行われた。（図 7 参照）

実証実験では発電量 5kw であるが、今後の量産販売に向けては当該実験のデータを検証し、高効率の 20kw の発電量を実現する予定である。

【試作機の仕様】

- 水車形式：開放下掛式
- 永久磁石内蔵型同期発電機
- 外形寸法：長さ 8.6m ×幅 4.9m ×高さ 6.6m
- 水車寸法：直径 4.0m ×幅 1.3m
- 全体重量：13.7t
- 最大発電量：5kw

図 7　設置した試作機

5. 最後に

当プロジェクトでは、将来の持続可能エネルギーの一助となる省エネルギー型の水力発電の開発を行った。水力発電は、エネルギーを生み出すために落差を利用することから立地が限られ、多大なイニシャルコストを要した。しかし、水路を利用し、かつバイパス水路の設置が不要な当該設備が開発されたことで、コスト面のみならず環境意識の高まりから、普及することが期待される。

大原鉄工所のこれまでの実績で培ってきた確かな技術と、デザインに対する理解が、当プロジェクトにおいての双方の信頼と円滑な業務進行につながっている。

また、今回は行政の助成金を活用することで、産学官での連携が生まれ、地域としての活動として注目されることとなった。

今後は、実証実験において装置にさらなる改良が加えられることとなるが、「メイド・イン・長岡」の要素を持ち合わせ、実現化することを期待したい。

受託事業名：

多機能ポストのデザイン研究開発業務

発注者：株式会社下条製作所
受託期間：平成 25 年 7 月 22 日～平成 26 年 3 月 31 日
プロジェクト主査：土田知也（プロダクトデザイン学科 教授）
プロジェクトメンバー：オープンハウス エヌ　黒崎英也

※所属等はプロジェクト当時のもの

1. 開発の背景

下条製作所は鉄、ステンレスなど薄板鋼板の板金加工とスポット・TIG 溶接及び、精密小物部品の切削加工を得意とし、アウトドア用品や換気用フード、郵便ポストなどの製造を行ってきた。

その中でも、郵便ポストは 35 年にわたり、大手メーカーの製造下請けを行ってきたが、今まで培った技術・資産を生かして、独自ブランド製品の開発を行うことになった。

2. デザイン案について

郵便ポストの市場はパナソニックやリクシルの様な大手から中小メーカーまで、多くのメーカーが入り乱れ様々な機種を生産している。また、最近では海外の優れたデザインの製品も輸入される様になっている。下条製作所は後発のメーカーとして、他社にない魅力をもった商品を開発する必要がある。内外の既存の代表的な商品の調査を行うと共に、多くのスケッチを描きながらいくつかのアイデアに絞りこんでいった。

①壁面に設置することを前提としたもの

ポスト周りには表札や、インターフォンが合わせて取り付けられることが多い。しかしながら、これらの商品はデザインの統一感が取れていないため、単体では優れたデザインでも組み合わせるとバラバラな印象を与えることが多い。そこで、表札、インターフォンなどをポストを中心にトータルでデザインし提供することを基本的な考え方とした（図１）。

形態は一般住宅に馴染む、直方体基調のアイデアとして、ポストだけが自己主張するのではない建築を含めたトータルなたたずまいを意識した。

機能面ではポストとしての基本的な使い勝手に留意し、投入しやすい蓋の開き方や、夜間近づくと点灯する表札や鍵の照明、郵便物の投入を知らせるライトを実装することにした。鍵はダイヤルキーと電子式のタッチキーの両面で検討することにした。

なお、（図２）に示す様に、コーナーに丸みを取った形状のもの、横型のモノなども提案したが今回の開発検討は直方体基調の案で行うことにした。

・ダイアルキータイプ

・タッチキータイプ　単独、表札ユニット付、表札+インターフォン

図１：直方体基調案

図２：その他のアイデア

②単独独立設置型でシンボルとなるもの

単独で住宅の前に設置した時、どこにもない様な強い存在感をもった郵便ポストを開発することを目指した。図１の住宅に馴染むというアプローチとは真逆の考え方だが、ポストというカタチを使ってどこまでシンボリックな造形が可能かにチャレンジした(図３)。音声応答などのギミックも満載する予定である。

③色彩の考え方

色についてはベーシックカラーとして、建築壁面の代表的色彩である白（GN93)、ベージュ (G17-85A)、ダークグレイ (GN40)、シルバー（ステンレス HL）を選択し、アクセントカラーとしてカーマイン (G05-40X)、オレンジ (G15-70V)、ターコイズ (G55-50P) を選択した。両者の組み合わせにより、馴染ませる、目立たせる両面に対応できるようにした。

3. 試作及び今後の開発

壁面設置型と単独設置型の試作を行った。壁面設置型は雨仕舞、強度、壁面への取付方法、電子回路の検討などを経て、ある程度、商品化に向けての道筋が見えてきた。扉部の一層の強化や、内部の配線処理の合理化、販売価格を意識したコストの調整など､商品化への課題はまだ多いが、今後も開発を継続する予定である（図４)。

単独設置型は操作性から高さ、大きさの検討を経て、形状と基本機能を確認できる原寸モデルを作った段階であるが、そのシンボリックでどこかユーモラスなデザインには、今後の商品化への手ごたえを感じているところである（図５)。

いずれも IDS コンペへの出品を目標にして、2015 年の１月には完成させることを目標に開発を進めている。

図３：シンボリック案

図４：直方体案試作

図５：シンボリック案試作

受託事業名：

人形関連製品のデザイン開発業務

※所属等はプロジェクト当時のもの

発注者：株式会社隆和堂
受託期間：平成 25 年 5 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日
プロジェクト主査：金澤孝和（プロダクトデザイン学科 准教授）
プロジェクトメンバー：プロダクトデザイン学科 3 年　菊田詩織、佐藤凌太朗、嶋田雅紀、新保美咲、高島いづみ、高橋大、髙橋由果、永田夏樹、長野美鳳、畑山俊史、山口栞

1. 概要

株式会社隆和堂は、雛人形や五月人形などの節句人形の製造及び卸、販売を手掛けている会社である。新潟県三条市の本社のほか、埼玉県川口市などの工房で伝統工芸士である職人が技法を守りながら、自社製造の強みを生かして顧客の住環境の変化や嗜好の変化に対応した製品を提供している。

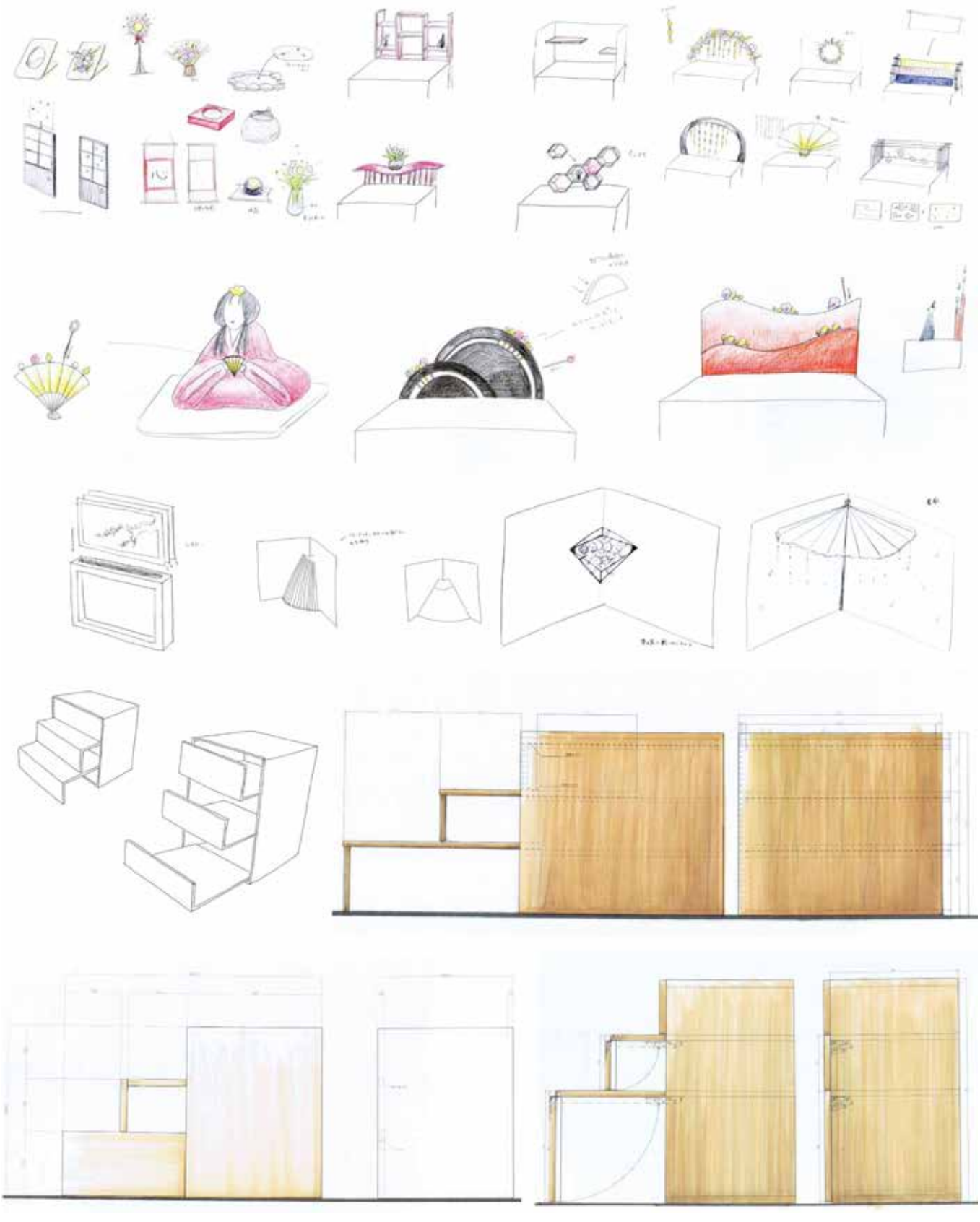
今回のプロジェクトは、同社の雛人形、五月人形を飾る新しい視点での演出、及び収納方法を、学生に依頼したいという内容であった。学生達の新鮮なアイデアが求められ、幅の広いアイデア展開を目指して提案をおこなった。

2. デザイン案

今回のプロジェクトは、幅の広いアイデア展開を目指すこともあり、既存の配置・飾り方や、風習、しきたり等に則したアプローチの他にも、節句の在り方を提案するような、まったく新しい視点でのアイデアも積極的に広げていく方向で作業を進めた。アイデアの数がある程度まとまった段階で、隆和堂の担当の方々をお呼びして、プレゼンテーションを行ったが、興味を持ってもらえているが反応が今一つ薄い印象であった。先方が求めていたものは、屏風や鏡台、重箱、茶道具といった小道具（ミニチュア）、造花などのピンポイントのアイテムでの提案、あるいは収納箱のカタチなど、より具体的な提案を期待しているようであったため、方針を変更して再度アイデア展開をおこなった。

学生達は、部分的な提案ではストーリー性を表現できないというジレンマからか、アイデア展開に難しさを感じていたようであるが、透過素材を使いレイヤー構成にした屏風、半立体で奥行感を表現した屏風、飛び出す絵本の構造の屏風。造花がヘアゴムやヘアピン、指輪になっていて子供自身がおめかしできるようになっている提案、部屋のコーナーに階段棚を設置する提案、家具用金物を応用して収納ケースが簡単に階段棚になる提案など、節句を楽しむ子供目線の提案～収納や住宅事情を考慮した親目線の提案まで、最終的にこの報告書ですべてを紹介することはできないが、200 案を超えるデザイン案を出すことができた。

途中、方針変更後にアイデア展開に苦戦するなど反省点は多々あるが、学生達の新鮮なアイデアの中から、節句を祝う人々に向けた製品が生み出されることになれば良いと感じている。



受託事業名：

※所属等はプロジェクト当時のもの

もみがら炭技術を応用した関連製品のデザイン開発研究業務

発注者：進展工業株式会社
受託期間：平成 25 年 5 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日
プロジェクト主査：金澤孝和（プロダクトデザイン学科 准教授）
プロジェクトメンバー：プロダクトデザイン学科 3 年　菊田詩織、佐藤凌太朗、嶋田雅紀、新保美咲、高島いづみ、高橋大、髙橋由果、永田夏樹、畑山俊史、山口栞

1. 概要

進展工業株式会社は、建設業の管工事をはじめ、空調、衛生、大規模ポンプ場、ごみ焼却プラント、冷暖房、畳・床暖房、省エネ給湯システム、油吸着材など、幅広い部門での環境の維持､改善のための開発を手がけている会社で、（ＨＰより抜粋）今回依頼を受けたのは、米どころ新潟で大量に発生するもみがらを、炭化プラントで特殊な処理を施した「もみがら炭」の技術を応用した関連製品のデザイン研究開発業務である。同社の開発するもみがら炭には、撥水性能をもたせたものと、親水性能をもたせたものがあり、いずれも優れた消臭性能をもつ素材であるが、今回は撥水性能をもたせたもみがら炭と、吸水性能をもつ高分子ゲルを混合した状態の製品である､「グリーンマナー」の応用に関してアイデア展開をおこなった。

（水分を含んだ状態で匂いを発生する糞尿や食品には、一般的な消臭材である活性炭やゼオライトでは、吸水あるいは沈殿してしまい効果があまりないそうだが、グリーンマナーは最初に水分を高分子ゲルが吸水・ゲル化して、撥水性のもみがら炭がその外側に層をつくることで優れた消臭効果を発揮するメカニズムになっている）

2. デザイン案

グリーンマナーの開発背景には、震災や交通渋滞時に発生するトイレ難民を危惧するということがあり、簡易トイレのデザイン開発が求められた。そのほかにも、日常生活のなかでの匂いの発生を抑える道具の開発も並行しておこなった。

簡易トイレに関しては、車に常備しておくことを条件にアイデア展開をおこなった。まず一般的な乗用車～軽自動車の車内スペースの洗いだしを行い、用を足す場所を特定することから始めた。特に女性からの要望として、「用足しをしている最中は顔が窓から遠い方が良い」「窓を背にして座りたい」「車内の中心を向きながらの方が落ち着く」等が挙げられ､後部座席に設置できるアイデアを展開した。また、「座面の穴が、楕円や円であると、便座をまともに連想させる（＝車載したくない）」「穴の大きさが広いと（一般的な便座の大きさだと車中では）羞恥や不安を感じる」等の要望から、穴径と形の検討をするべく、実際スタディモデルを多数作成して検討をおこなった。さらには、道具に極力触れないようにセッティング～片づけができるよう

な配慮や、暗い車中でも、袋の位置がマグネットで誘導されるよう配慮したデザイン案が検討された。

最終的には２パターンの車載用簡易トイレの提案と、日常生活のなかでの匂いの発生を抑える新しい道具の提案をおこなった。予想はしていたが、学生達はトイレのアイデアには中々着手せず、後者のアイデア展開が多くなってしまい、本来求められていた提案が後手にまわってしまった反省点が残る。結果、製品化に直結する提案には至らなかった。しかし、羞恥心を強く持つ若い学生ならではの丁寧なアイデア展開や、匂いの発生源に極力触れないようにするための配慮等､大人たちが見落としがちなアイデアが多々あり、参考にしていただけたのではないかと感じている。

受託事業名：

※所属等はプロジェクト当時のもの

ごみと資源物の分け方・出し方 DVD 編集・制作業務委託

発注者：長岡市
受託期間：平成 25 年 9 月 27 日～平成 26 年 3 月 31 日
プロジェクト主査：ヨールグ ビューラ（視覚デザイン学科 教授）
プロジェクトメンバー：視覚デザイン学科 3 年　岡村愛、小林由佳、早川尚子、吉田祥太

1. プロジェクトの概要

平成 18 年より長岡市環境部の依頼で制作している「家庭ごみの分け方と出し方」の説明ビデオ。その初版から大学のデザイン研究開発センター経由で定期的にいくつかの改訂版を学生と一緒に制作しました。パンフレットなどの印刷物と並んでごみの取り扱い方を説明する目的はもちろんですが、ごみが収集されてから送られるそれぞれの施設での処理も映像らしく演出されています。最初は公民館で行われる説明会でのみ映像を再生する予定でしたが、平成 22 年から市のウェブページにも掲載されることになりました。

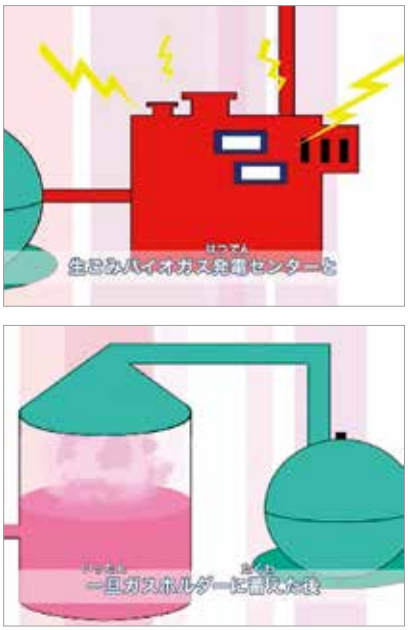
地域（ローカル）の環境でグローバル的な問題「エコ」を映像で上手くデザインできるかがこのプロジェクトの主な研究挑戦と動機でした。

廃棄物種類のチャプタータイトル（2008 年の映像の静止画）

2. 平成 18 年からの映像の発展

平成 20 年に最初に制作した映像を子供や聾唖者向けに、それらの視聴者に分かりやすくするためにナレーションの更新と字幕の配置の作業を行いました。

その後、長岡市のごみに対しての扱い方の変化に合わせ少し更新し、また平成 25 年に「生ゴミ」が新しく収集対象になりましたので、映像の内容が大きく変わりました。新しい扱い方を市民に春から説明したいとの要望でしたが生ゴミを処理する新規施設はまだ工事中で撮影できなかったため、生ゴミ処理の部分をほとんどイラストとアニメーションで表現しました。



バイオガスセンターの説明アニメーション（2013 年の映像の静止画）

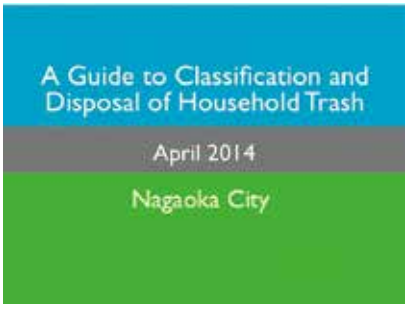
3. 今回の映像

今までの経験を基にし今回のバージョンの内容は現状に合わせてさらに改善されました。生ごみの処理工場「バイオガスセンター」も実際に運営が始まったので、実写映像も挿入できました。

バイオガスセンターの実写映像（今回の映像の静止画）

また、新しいリサイクル物の種類「古着・古布」の収集が始まりました。これに対して撮影と新規種類の編集が必要になりました。生ゴミ処理の部分をほとんどイラストとアニメーションで表現しました。

新しく収集される古着と古布のシーン（今回の映像の静止画）



各言語のタイトル画面（今回の映像の静止画）

外国語バージョンの録音風景（今回の映像制作の風景写真）

今回の各言語の映像は次のリンクで確認できます：
http://www.city.nagaoka.niigata.jp/kurashi/cate08/kateigomi-dvd.html

4. まとめ

先ず、このプロジェクトで学生は主に、実際のクライアントとのやりとりと映像作品の具体的な制作過程に詳しくなりました。そして、ある情報をどうやって動画で表現するのかを勉強することもできました。

受託事業名：

機那サフラン酒本舗歴史的建造物調査業務

※所属等はプロジェクト当時のもの

発注者：NPO 法人醸造の町摂田屋町おこしの会
受託期間：平成 25 年 5 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日
プロジェクト主査：平山育男（建築・環境デザイン学科 教授）
プロジェクトメンバー：西澤哉子

1. はじめに

長岡市摂田屋を中心に活動する NPO 法人醸造の町摂田屋町おこしの会から機那サフラン酒本舗における歴史的建造物の調査依頼に基づいて、平成 25(2013) 年度に同本舗に現存する主屋、衣装蔵、離れ座敷をはじめとする建物の調査を実施した。ここでは、調査から明らかとなった建物の来歴、建築の経緯、建築年代などの報告を行う。

2. 機那サフラン酒造本舗の概要

機那サフラン酒造本舗では吉澤仁太郎が明治時代中期頃から薬種の製造及び販売を行った。仁太郎は文久 3(1863) 年 6 月 2 日、古志郡定明村の吉澤家次男として生まれた。生家は農家であったがサフラン酒の製造を明治 17(1884) 年に始め、明治 27(1894) 年には摂田屋の地に出たという。仁太郎は明治 44(1911) 年に大看板、大正 15(1926) 年には鏝絵(こてえ)蔵、即ち事務棟を建築したが、主屋、離れ座敷、衣装蔵などの建築年は従来明らかではなかった。仁太郎の没年は昭和 16(1941) 年 5 月 12 日とされる。

3. 機那サフラン酒造本舗建物の概要

・敷地

本舗の敷地は摂田屋の地を南北に縦断する県道 370 号線に東面し、広さは間口 100m、奥行 50m 程となる。県道に面した敷地境には高さ 1m 程の石垣が築かれ、石垣を区切って中程の北側と南側に入口がある。北側の入口正面に主屋と事務所棟として用いられた鏝絵蔵､上手に衣装蔵、背面に離れ座敷が配され、衣装蔵から離れ座敷前にかけて数々の灯籠を備えた庭園が広がる。なおこの他、敷地内には調整、包装、充填などを行う作業棟、倉庫蔵 2 棟、車庫などが配されている。

・主屋

主屋は東面し、木造一部 2 階建で、入母屋造桟瓦葺妻入の形式で、正面梁行 8 間、桁行 9 間の規模とする上屋の正面に 2 階建桟瓦葺切妻造妻入の形式で、北側に寄って正面梁行 4 間、桁行 2 間の入口部分が取り付く。また、正面東面、南側面に 1 間幅の下屋が取り付き、縁及土庇となる。なお、主屋正面上手に角屋が 3 間延び、衣装蔵が取り付く。離れ座敷は主屋南西角に廊下を介して配され、主屋下手の表側に事務所棟、裏側に作業棟が接続する。

・衣装蔵

衣装蔵は北面し、切妻造桟瓦葺平入、2 階建の形式となる。規模は桁行 4 間半、梁行 3 間である。

・離れ座敷

離れ座敷は東面し、入母屋造桟瓦葺平入の形式で、桁行 9 間半、梁行 5 間、2 階建とする。

4. 機那サフラン酒造本舗建物の建築年代

・主屋

建物からは建築年代を記す 1 次資料は見出されなかったが、小屋裏に長さ 2.5 尺、無記名で洋釘止めの幣串と、5 節で長さ 3.37 尺、5 節で 4.12 尺とする竹製の幣串が洋釘止されていた。更に小屋組背面両隅木側面からは、年号を記さない祈祷札 2 枚が洋釘止めの状態で見出された。

ところで、今回の調査では以下に示すように数々の文献資料を確認することができた。

①明治 45(1912) 年の日付を持つ見積書（以下『明治 45(1912) 年見積書』と記す）
②『古志郡上組村字摂田屋吉沢様屋家建築設計書』（以下『設計書』と記す）
③大正 2(1913) 年『人足控』
④大正 3(1914) 年『大正弐年度家作経費一覧表』（以下、『一覧表』と記す）
⑤平澤喜一郎からの見積書

一連の資料で、最も遡る日付は①『明治 45(1912) 年見積書』に記載されるものである。この資料は末尾に明治 45(1912) 年 7 月 24 日の日付を持つ見積書である。そして、①『明治 45(1912) 年見積書』の内容を整備する形で②『設計書』の前半 1 紙から 11 紙にかけての見積が作成されているが、ここに日付は記載されない。なお、②『設計書』ではこれに引き続いて追加及び変更の記載があり、12 紙裏に同年となる大正元 (1912) 年 11 月 5 日付で請負金が大工へ渡されたことが記録されている。但し、②『設計書』では更に変更などの記載が後半に続き、最終的には②『設計書』17 紙表において大正 2(1913) 年 3 月 17 日に請負支払があったとする。以後における建築の日程は翌年 5 月 18 日に石場勝ち（③『人足控』12 紙表）が始まり、5 月末頃に上棟があったと判断できる。そして工事は大正 2 (1913) 年の内には竣工があり、最終的には大正 3(1914) 年 4 月 8 日に④『一覧表』が調査作成された。

技術者について見ると、最も遡る①『明治 45(1912) 年見積書』を提出した大工は、9 紙裏に記される“三島郡来迎寺村篠花 金安栄吉”である。これは、前年の明治

44(1911) 年 4 月に機那サフラン酒本舗大看板の棟梁を務めた金安栄□と同一人であろう。大看板の工事に引き続き主屋増築工事も同じ棟梁に対して見積が要請されたと見てよい。見積は 3 回の設計変更があるが、12 紙裏の 1 回目の変更である大正元 (1912) 年 11 月 5 日の見積は、同じ金安栄吉の名前となっているが、名前は 2 本線での見え消しとなる。更に 13 紙裏に大正元 (1912) 年 12 月 19 日の日付を持つ 14 紙表における 2 回目の設計変更では “ 三島郡来迎寺村大字浦 西脇浜吉 ” が請負者となり、“ 仝郡仝村笹花 金安清吉 ”（読点筆者）の名前が併記されるに留まる。これは 1 ヶ月程の間で請負者である大工の変更があったことを示す。ところでよく見ると 2 回目の設計変更における金安清吉は、金安栄吉と同一の字内におけるは同姓者であることから、両者は近しい縁者としてよいだろう。また、1 回、2 回目の見積において、金安栄吉の名前が一方的に消されるのではなく、縁者が並記されつつ請負者が変更され、しかも金安による 1 回目の設計変更である 11 紙から 14 紙にかけて、紙境に西脇の割印が押される点は、金安の見積を西脇が継承したことを意味する。

以上をまとめると、大正元 (1912) 年 11 月 5 日以後、何らかの理由で金安栄吉は主屋増築工事を担えなくなったが、急遽、12 月 19 日の段階で縁者の金安清吉も了解の元、近隣の西脇浜吉に仕事が継承されたと判断できよう。

なお、翌年 5 月末頃に挙行された上棟式の参加者を③大正 2(1913) 年『人足控』7 紙裏により確認すると、棟梁として “ 浜吉 ”、即ち西脇浜吉が第一に見られるものの、金安栄吉、金安清吉の名前は見ることができない。また、大工の出面でも金安姓は確認されない。

即ち、主屋増築工事は明治 45(1912) 年 7 月当初の段階で見積を行ったのは金安栄吉であったが、大正元 (1912) 年 12 月頃、止むを得ない事情により大工は西脇浜吉に交代し、以後は西脇が仕事に当たったと見ることができる。

・衣装蔵

衣装蔵からは建築年代を記す 1 次資料は見出されなかった。ところで調査によって見出された資料においては、大正 5(1916) 年 1 月起工とされる『土蔵建築控』が、この衣装蔵の建築に関わるものと推察された。

この資料では、1 紙表に

請負人
土工　　佐藤新右ヱ門
石材　　神林平太郎
木材　　西脇浜吉
壁　　河上伊吉

と見ることができる。以上より、衣装蔵を手掛けた大工は大正 2(1913) 年の主屋増築工事にも携わった大工の西脇浜吉、左官は河上伊吉とすることができる。

ところで『土蔵建築控』には工事の具体的な日程は記されないが、支払の記録などから以下のような日程が考えられる。先ず、起工は『土蔵建築控』表紙に

大正五年壱月吉日起工

とされるものの、記載内容から、これに先だって前年 12 月から同年 1 月に用材の伐採、運搬が判明する（2 紙表から裏）。基礎工事である石場かちは 4 月 26 日から 28 日にかけてあり（3 紙裏）、上棟式の支払は 6 月 25 日付（4 紙裏）であることから、この頃に上棟式が行われたと考えることができる。この後、各業者への支払は原則的に年末までには完了し、壁工事の支払のみが翌大正 6(1917) 年 1 月に行われている（7 紙裏）ことから、建物の大部分は大正 5(1916) 年の内に完成したものと考えてよい。

・離れ座敷

離れ座敷小屋裏棟束南面には 2 枚一組の棟札、袂の小屋梁には木製の幣串が洋釘止めされ、幣串の根本には竹製の幣串 6 本が結わえられていた。棟札は一枚目表面に

昭和六年五月廿七日上棟
盛運長久　吉澤仁太郎
宝年七十才

とあり、2 枚目表には

昭和六年五月廿七日上棟
天上無窮　頭梁
平澤喜太郎　三十八才

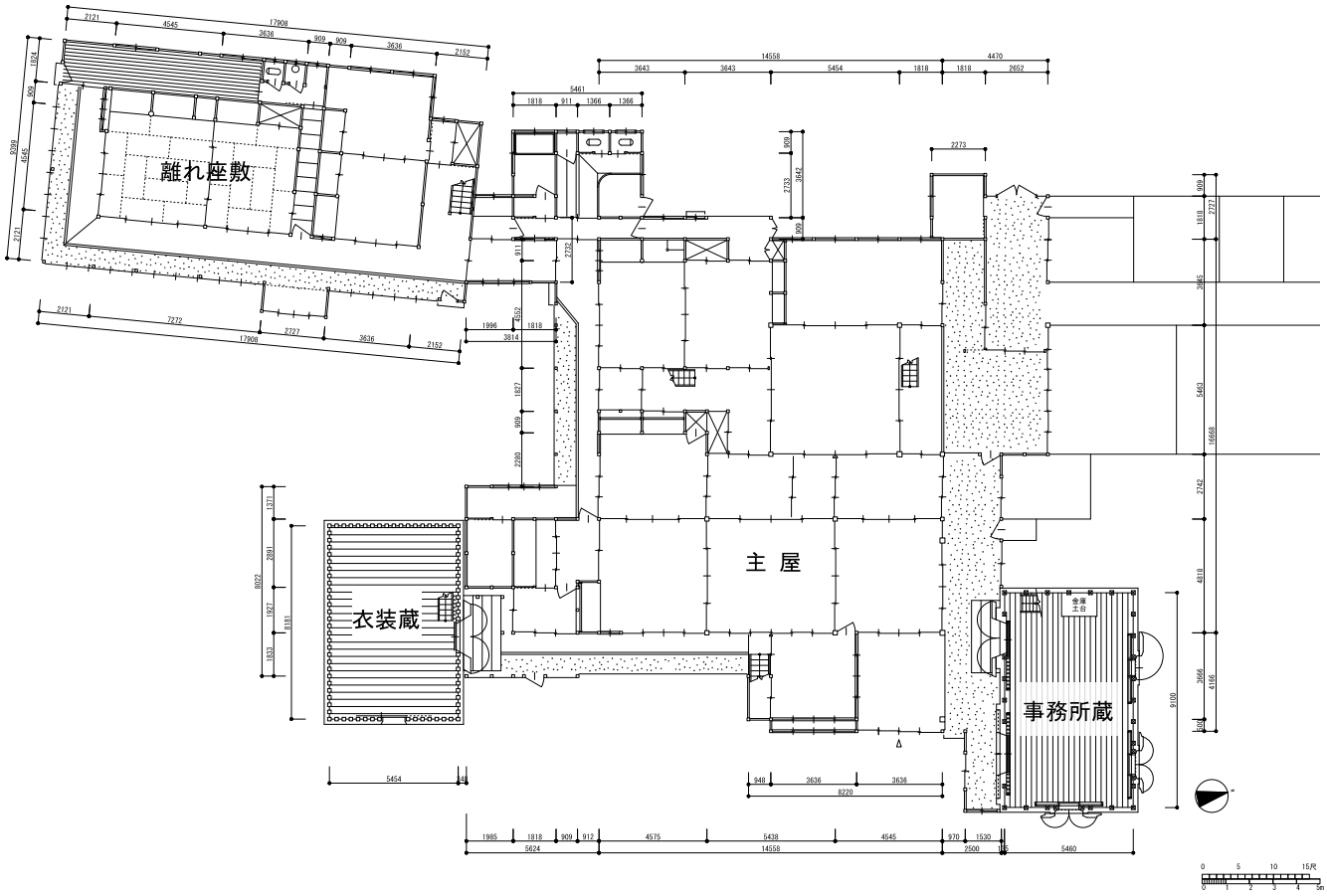
とされ、昭和 6(1931) 年 5 月 27 日の上棟式執行が判明する。

5. さいごに

機那サフラン酒本舗の建築調査から明らかとなったのは以下の諸点である。

1) 主屋は大正 2(1913) 年に増築工事が行なわれた。当初は大看板を手掛けた金安栄吉が見積を担ったが、最終的には西脇浜吉に交代した。
2) 衣装蔵は、大正 5(1916) 年 6 月上棟があり、大工西脇浜吉、左官河上伊吉により施工が行われた。
3) 離れ座敷は昭和 6(1931) 年 5 月 27 日の上棟で、大工平澤喜太郎により工事が行われた。

サフラン酒造本舗主屋、事務所蔵（鰻絵蔵）東より　　撮影はいずれも田村収



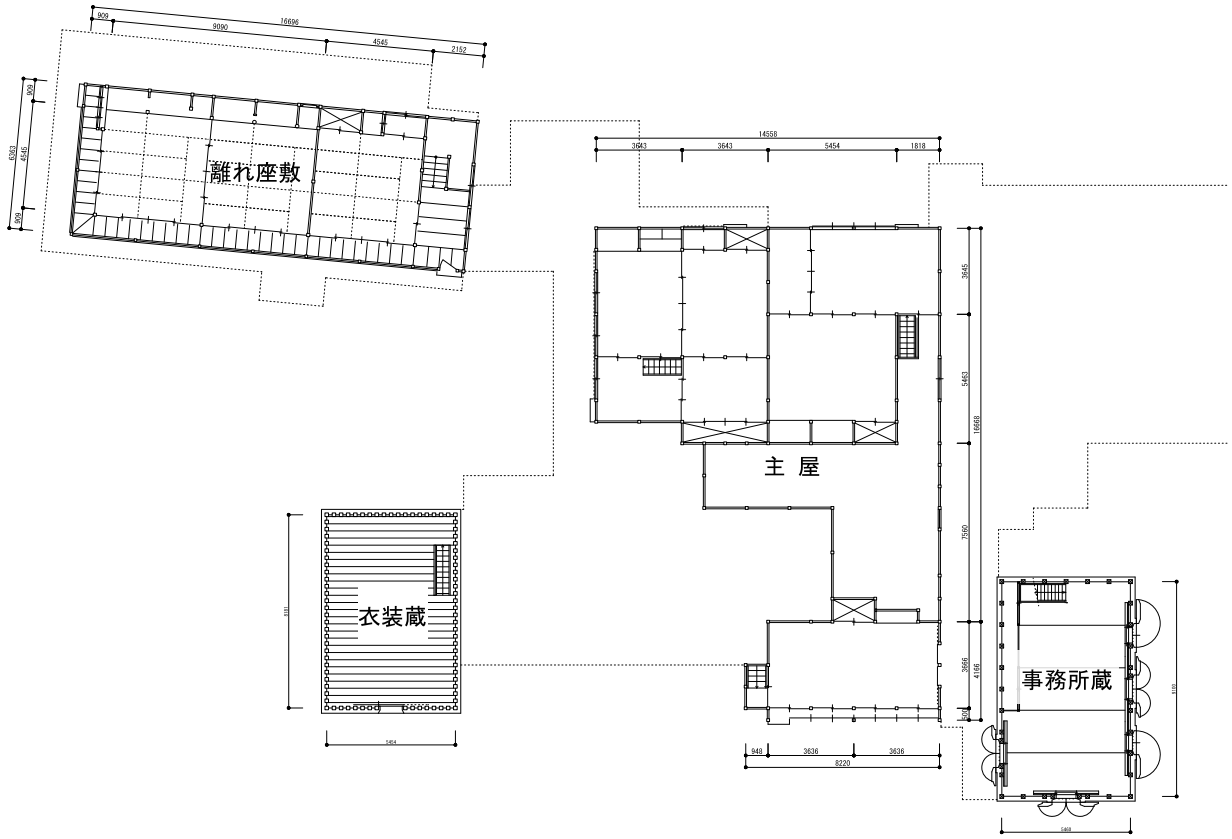
サフラン酒造本舗主屋、事務所蔵、衣装蔵、離れ座敷 1 階 平面図

離れ座敷 外観 東より

離れ座敷 2 階 東より

衣装蔵 外観 東より

衣装蔵 2 階 東より



サフラン酒造本舗主屋、事務所蔵、衣装蔵、離れ座敷 2 階 平面図

受託事業名：

※所属等はプロジェクト当時のもの

平成 25 年度歴史的建造物詳細調査業務委託

発注者：三条市
受託期間：平成 25 年 11 月 15 日～平成 26 年 2 月 28 日
プロジェクト主査：平山育男（建築・環境デザイン学科 教授）
プロジェクトメンバー：西澤哉子

1. はじめに

平成 25(2013) 年度は、三条市から三条市月岡に所在する川俣家住宅長屋門、三条市名下（みょうげ）に所在する長谷川家住宅石垣調査の依頼があり、両物件の調査を実施した。本稿においては、調査などから明らかとなった建物及び物件の来歴、建造の経緯、建築・建造の年代などについての報告を行う。

2. 三条市月岡 川俣家住宅長屋門

・川俣家の概要

川俣家住宅は三条市月岡の五十嵐川西岸に位置する。敷地は県道 212 号線を三条市総合運動公園の交差点において下田方面への市道を進み、月ヶ岡特別支援学校を過ぎた、通称同心坂の峠道に沿った場所となる。敷地は東西に通じる市道の北側に位置する。敷地内には市道に面して長大な長屋門、その背後に主屋と住居棟などが配されている。川俣家が当地に移り住んだのは昭和 40(1965) 年頃とされ、長屋門、主屋とも移築した。

・川俣家長屋門の概要

長屋門は市道に南面しており、梁行 2 間、桁行 15 間半の規模であるが、この内中央の門部分が桁行 3 間、向かって右側の建物部分が桁行 3 間半、向かって左側が桁行 9 間となる。屋根は入母屋造桟瓦葺で平入の形式とするものである。

・平面

長屋門は門部分が三間一戸の形式で、向かって右側に潜り戸を設ける。東西両室は現状ではいずれも土間の形式で物置などとして使われている。なお、門の背面で両室において側面となる部分は現状において開放となる。東室では南面及び北面に窓が中央に 2 間あり、いずれも格子が設けられ北面東端間に開き戸が設けられる。西室では南側 3 箇所に分かれ、5 間に格子付きの窓が設けられる。北側では西側に寄って 5 間が格子付の窓で、西端近くに開き戸が設けられる。

・構造

長屋門は切石礎石立とする。門部分では戸の両脇に巾 1.18 尺、奥行 0.80 尺となるご平断面の柱、この両脇及び両室隅部には 0.80 尺角程、東室の脇戸背面には 0.75 尺角の柱を立て、この部分のみ真壁として、それ以外は 0.4 尺角の柱を原則、外周に半間間隔で立て、大壁の構成とするものである。

軒を一材のせがい梁として京呂組で原則柱上に配し、軒桁を柱筋から 1.30 尺迫り出し、梁材中央の桁行に敷梁を配する。小屋組は和小屋組で、中央の棟木前後に母屋を各 1 通し配する。垂木は 0.2 尺角で半間間隔を基本として配する。

・建築年代

長屋門自体からは建築年代を示す 1 次資料は見出されなかったが、かつて長屋門に付されていたという棟札が見附市民俗文化資料館に別置される。棟札は全高 2.58 尺、上巾 0.79 尺、下巾 0.785 尺、厚 0.04 尺で、杉材、頭部を駒形とするものである。現在は一枚が残り、和釘穴が 9 箇所に残る。記載は表面に

天保九戊戌歳
棟札
四月廿四日

とするもので、裏面の記載はない。長屋門自体にも和釘の使用が認められ、札自体に建物名などが記載されないものの、伝承の経緯をたどると、棟札はこの建物のものであったと考えるべきで、長屋門の建築は天保 9(1838) 年と判断されよう。

・見附市旧渋谷家住宅における長屋門の配置

もともと、川俣家の長屋門は現在の見附市傍所（ほうじょ）町の刈谷田川北岸に位置した大庄屋を務めた旧渋谷家に建築されたものと伝えられる。現地は集落があり、比較的大きな区画を確認することができるが、当初の建設位置を確定することは難しい。

ところで、三条市への長屋門の移築は昭和 50(1975) 年代前半とされるため、それ以前における空中写真などを検討することによって、当初における長屋門の建設位置、規模などを類推することは可能である。

それによると、国土地理院に所蔵される空中写真から判断すると、この長屋門は東西 80m、南北 120m 程の敷地において、南面東側に寄って配される横長の建物として確認することができ、規模は現状のものに合致すると考えられる。

3. 三条市名下 長谷川家住宅石垣

・長谷川家の概要

長谷川家住宅は三条市名下の五十嵐川西岸に位置する。長谷川家住宅の敷地に現状で建物は存在しないが、周囲に石積を施した石垣を見ることができる。石垣が造られたの

は後述のように明治時代初期頃と伝承される。当時、地域の有力者であった長谷川家がいわゆる“お助け普請”を行ったと伝えられるのがこの石垣である。

・長谷川家石垣の概要

長谷川家の敷地は三条市の中心市街地からは国道289号を南下し、名下入口のバス停の所在する交差点で西に折れ、大谷地と名下をつなぐ五十嵐川に架かる大名橋を渡った北側の敷地となる。敷地は五十嵐川に向かい東面し、周囲は農地に囲まれ、北方には新潟県景勝100選に選ばれる八木鼻を望むことができる。石垣はかつての住宅敷地周囲に設けられ、南北が70m程、東西が60m程の規模を有し、南側の中央に巾18m程、東側に4m程の入口を設ける。高さは1～2m程で、南西角が昭和30(1955)年代に開削された市道により失われ、正面の東側には巾3m程の濠も設ける。

・石垣の平面

石垣は敷地の4周に設けられたもので、やや変形した長方形となる。敷地への接道はかつて東側の市道であったが、現在は敷地南側に開かれた市道からの道が中心となる。石垣は下巾が2～3m程、上巾がすぼまり1.5m程となる。石垣は当初の接道が連絡した東面中央に17.8m巾程の入口があり、併せて北面に3.6m巾程、西面に2.4m巾程の入口が各面中央付近に開かれる。外周では東側正面の入口両脇部のみ巾3m程の濠が設けられる。なお、敷地の内部は現在、畑地として用いられる。

・石垣の構造

石垣を構成する石材は地元で金石(かないし)、生石(いきいし)と呼ばれる野面(のづら)の自然石である。敷地背面となる西側は外面のみ、それ以外は内外を矢羽根状に積む矢積(やづみ)と呼ばれる形式によって積み上げるものである。

・石垣の建築年代

この石垣が造られたのは明治4～5(1871～72)年頃と伝承される。当時、下田郷では戊申の役による被害と凶作によって地域が疲弊しており、この際、地域の有力者長谷川家では、石1つを米1合と交換し、この石垣を築く、いわゆる“お助け普請”を行ったと伝承される。

ちなみに、現在確認できる石の数量は概算で10,000個程となり、この伝承が正しいものであれば、石垣の建造には少なくとも10石(1,800ℓ)の米を必要としたこととなる。

・石垣の復原考察

石垣は後述する写真と比較しても当初の形式をよく伝えていることが分る。但し、南西部が昭和30(1955)年代に開削された市道により隅部が切断を受けている。また、後述する古写真によると石垣上部にはかつて生け垣が植えられていたことが分かる。加えて、東正面に掘られた濠には水が湛えられていた。

・古写真に見る長谷川家住宅と石垣

長谷川家住宅の旧状を伝える古写真は7枚が伝わる。撮影年代は明らかではないが、戦前期に遡る景観を示すものと判断できる。古写真を材料に長谷川家の旧観は以下のようにまとめることができる。

長谷川家の石垣は現状では南西角が開削された市道により切断されるが、当初は4周を囲繞した。石垣は東側となる正面に濠が築かれ、水を湛えた。そしてその中ほどに通路があり現在は入口となり石垣の途切れる部分に長屋門が築かれた。また、石垣南西角には蔵と見ることのできる建物が配された。敷地内部では長屋門を入ると正面に東面して茅葺で棟に気抜を持つ主屋が配された。主屋の玄関は石置屋根で、上手は木塀で区切られた。また主屋上手となる南側には石置屋根となる建物が連なり、庭中には少なくとも2箇所の築山があり、庭石、石灯篭などを配した。なお、主屋と考えられる建物は入口を入った土間に接続し、上手の床上は少なくとも前後2列に3室が接続する平面形式で、表側上手に床の間、仏壇を構える形式であったと確認することができる。

4. さいごに

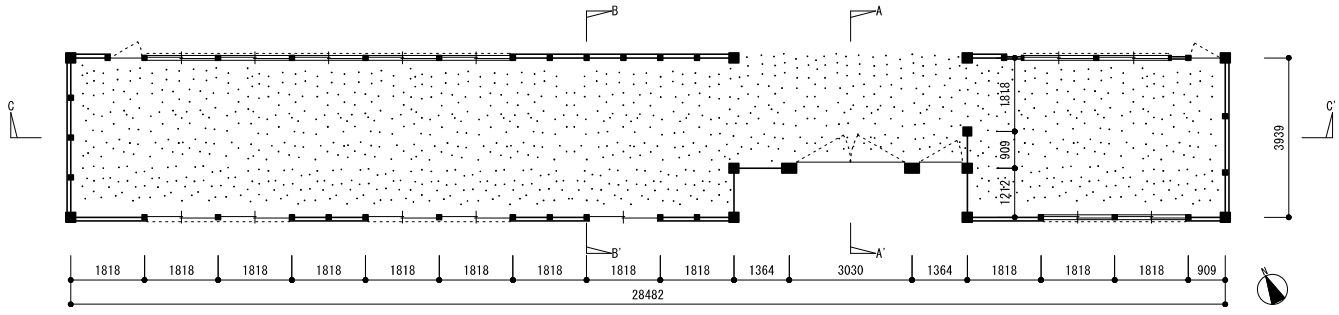
三条市月岡に所在する川俣家住宅長屋門、三条市名下に所在する長谷川家住宅石垣調査から明らかとなるのは以下の点である。

1) 川俣家住宅長屋門の建築年代は、見附市民俗文化資料館に別置される棟札の記載より天保9(1838)年と判断される。
2) 長屋門は当初、見附市傍所町旧渋谷家に建築されたものを昭和50(1975)年代前半、現位置へ移築された。
3) 長谷川家住宅石垣は、明治4～5（1871～72）年頃に、いわゆるお助け普請によって建築がなされたと伝承される。
4) かつて長谷川家石垣東側には長屋門が築かれ、正面側には濠が掘られ、石垣内側には茅葺の主屋、石置板葺の建物、蔵、庭が築かれた。

川俣家住宅長屋門 北より

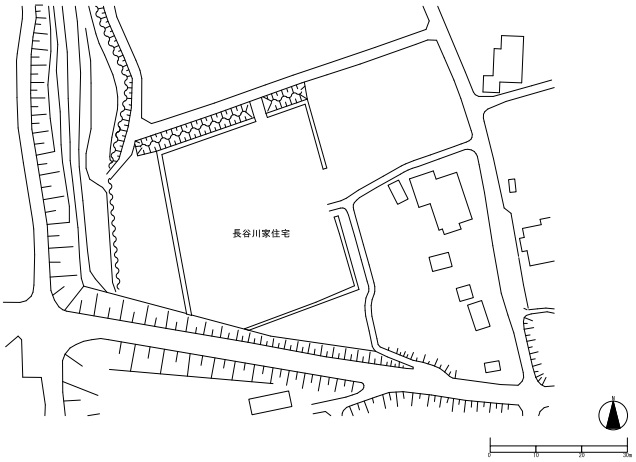
棟札

川俣家住宅長屋門 南より



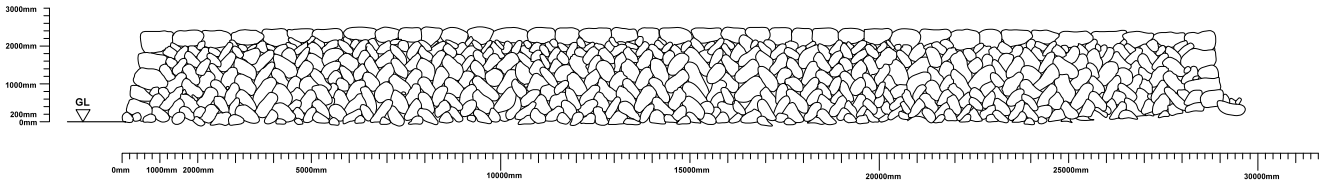
川俣家住宅長屋門 平面図

長谷川家住宅石垣 西より



長谷川家住宅石垣 平面図

長谷川家住宅石垣 東より



長谷川家住宅石垣 東面南立面図 / 連続写真

受託事業名：

小千谷市歴史的建造物調査業務

発注者：小千谷市
受託期間：平成 25 年 5 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日
プロジェクト主査：平山育男（建築・環境デザイン学科 教授）
プロジェクトメンバー：西澤哉子

※所属等はプロジェクト当時のもの

1. はじめに

平成 25(2007) 年度に小千谷市から全域において文化財建造物の悉皆調査の実施と小千谷市真人町の藤巻家住宅主屋、小千谷市稗生の三仏堂の建築調査を依頼された。本報告では調査から明らかとなった小千谷市内の歴史的建造物についてと、調査建物の来歴、建築の経緯、建築年代などについて報告を行う。

2. 小千谷市における歴史的建造物の悉皆調査

・調査の概要

小千谷市における歴史的建造物の悉皆調査は、市域に位置する全建物を公道から望見し、建築年代が昭和戦前期に遡る建物を抽出して、住宅地図などで場所を確認した後、調書の作成、写真撮影を行うものである。調査においては宗教建築 206 件、住宅等建築 435 件、合計 641 件の歴史的建造物を抽出した。

本報告ではこの内、茅葺建物と妻面に幣串を打ち付ける建物について報告を行う。

・茅葺建物について

小千谷市全域においては 61 棟の茅葺建物を確認することができた。61 棟の内訳を見ると宗教系施設 23 棟、住宅系施設 38 棟となる。住宅系の内訳は主屋 33 棟､土蔵 4 棟､納屋 1 棟であった。

一方、市域において茅を露出するものは国指定有形文化財である魚沼神社阿弥陀堂と住宅主屋 4 棟の合計 5 棟であった。他の 56 棟はいずれも金属板系の材料で被覆などを行う建物であった。

市域の町別で見ると 22 棟が真人町に集中する。次いで岩沢に 8 棟、小栗山に 5 棟、南荷頃に 3 棟となる。つまり市域を南北に縦断する信濃川を挟んで広がる平野部にはわずかの茅葺建物が点在し、その後背地となる中山間地域に茅葺建物の多くが位置すると言える。

小千谷市域における茅葺建物の出現率を見ておきたい。分母は各地域における平成 24(2012) 年 2 月 1 日現在の世帯数として見たものである。これによれば小千谷市域全体における茅葺建物の出現率は 0.5％となりやや低い数字となる。但し、真人町に限れば 1.6％となり、やや高い値となる。

・妻面に幣串を打ち付ける建物

小千谷市域においては切妻造の主屋の妻面などに幣串を打ち付ける建物 13 件 20 本を見出すことができた。なお、建物の妻両面に幣串を配するものは確認することができなかった。妻面に幣串を有する建物の内訳はいずれも主屋で、かつて大工職を行っていた農家 1 棟、商家 1 棟、住宅 11 棟となる。

幣串の形態は片貝町の KS 家住宅主屋では十字形であった。他は 2 件 8 本が長方形型、10 件 10 本が上先端を駒形とするもので、上ノ山 2 の YY 家住宅のものでは墨線を確認することができた。

打ち付け方法は、10 件が本体妻面、特に棟束へ直接釘止めとするものであったが、3 件が破風板留部分へ幣串上部を合わせ、釘止めするもので、これは従来、同種の調査を実施した、長岡市、三条市においては確認されないものであった。

3. 藤巻家住宅主屋について

・真人町と藤巻家の概要

藤巻家が現在位置するのは真人町でも本村と呼ばれる信濃川沿いの地域である。藤巻家はもともと丘陵中腹に位置する市の沢と呼ばれる集落に住んでいたが、この地へ降りてきたと伝承される。かつては住宅近傍の信濃川に川港が設けられ、これを通じ藤巻家は通運業にも従事し、近代では真人村の戸長を務め､住宅は一時､役場を兼ねたとされる。当家では先代から医院を開業しており、現在に至る。

・藤巻家住宅主屋などの概要

住宅は集落を南北に貫通する県道 49 号線からやや入った本村の東側、信濃川川原沿にある。敷地は南北 120 m、東西 60 m程で、市道の東側に位置する。川原に面し鉄筋コンクリート製の擁壁があり、居室なども配される。住宅はこの地下室、主屋、診療棟、車庫などから構成される。

主屋は南面する寄棟造茅葺の建物であり、この正面西側に入母屋造金属板葺妻入形式を主体とする診療棟、東側に切妻造金属葺の角屋があり、これが地下室への通路となっている。

平面は南面する診療棟が正面に入口を張り出す。ここで靴を脱ぎ西側に受付を配する。正面が待合室となり、西側に診療室、手術室、調剤室、東側には事務室とレントゲン室がある。待合室正面の扉奥が主屋の廊下へ通じる。廊下裏からが主屋となり、廊下の裏側となる板敷のダイドコの上手に田の字型に四室を配する。下手表側がチャノマ、裏側をブツマとする。上手側表はツギノマ、奥をオザシキとしてトコを配し、トコ脇に仏壇を置く。

主屋の小屋組は上屋梁 7 本を架け渡し、この両端で合掌を枘差鼻栓止めとして受け、合掌材は下屋へ片持ちとして伸びる構成とする前例を見ないものであった。

・建築年代

診療棟は聞き取りによると大正元 (1912) 年に建築されたものとする。

主屋からは建築年代を直接示す 1 次資料は見出されなかった。なお、この建物は昭和 37 ～ 38(1962 ～ 63) 年にかけ、宮澤智士らにより既に調査が実施されており、この藤巻家住宅主屋は享保年代頃の建築で、根拠は 200 年祭からの逆算とされる。

4. 木津三仏堂について

・木津三仏堂の概要

三仏堂はもともと不動堂と呼称されたが後に地蔵、観音が祀られ､三仏堂と呼称されるに至ったものと考えられる。現存する地蔵尊厨子は下面に明治 29(1896) 年の銘を持ち、不動尊厨子は 18 世紀中期頃の絵様を有する。

・木津三仏堂建物の概要

三仏堂は､稗生でも南寄りに位置する木津集落に位置し、小千谷駅前から南下する国道 351 号三国街道を進み、上越線の高架線を越えて南側へ折れた場所に所在する。敷地には隣接して木津公会堂がある。敷地は南北 20 m程、東西 20 m程で、この南側に寄ってほぼ北面して三仏堂が位置する。堂は 3 間堂で、寄棟造平入茅葺金属板被覆の形式で、正面に 1 間の向拝が接続する。規模は正面桁行 6.67 m、側面梁行 9.55 mとなる。

三仏堂の平面は正面に巾 1 間の向拝を設け、階 2 級を配し、周囲に縁は設けない。正面側が奥行 2 間の外陣で、奥の 1 間を内陣､更に背面に 3 段で半間巾の仏壇を設ける。平面規模は、桁行中央間が 9.0 尺、両脇間が 6.5 尺となる。梁行は外陣各間が 6.0 尺、内陣が 9.0 尺、仏壇の奥行が 3.5 尺となる。

柱間装置は、外陣正面中央間が板戸引き分け、その他外陣外周は板壁とする。内陣正面中央間は板戸引き分けで、内外陣境両脇間、外周は板壁とする。天井は内陣、外陣とも棹縁天井の形式とする。

・木津三仏堂の建築年代

三仏堂小屋裏の東側棟束表側には、洋釘により 3 枚の棟札が打ち付けられていた。1 枚は安永 5(1776) 年、残り 2 枚は明治 41(1908) 年の銘を持つものであった。安永 5(1776) 年の棟札には “ 奉大聖不動明王建立 ”、“ 大工棟梁／田中仁左衛門 ” と記されていた。記述からすると、安永 5(1776) 年をこの建物の建立年代とするのが妥当であるが、記載は建物の移築を示すものである。

この建物は昨年度実施した調査より安永 3(1774) 年、小千谷市平成 2 丁目、慈眼寺観音堂の建築に際して前身堂が移築されたものとの聞き取りがあった。実際、建物に残る彫刻絵様は､17 世紀末から 18 世紀初期頃の様相を示し、この年代が安永 5(1776) 年の移築を遡り、移築前の慈眼寺における創建に関わる年代と判断されよう。なお、慈眼寺は享保元 (1716) 年に没した 46 世空快の代に船岡観音を古観音屋敷から、現在の地へ移したとされる。つまり、元禄における出開帳と空快代における観音の移転は無関係とは言えず、三仏堂の現堂に残る古様の彫刻絵様はこれらと密接に関係すると見てよいであろう。

即ち、現三仏堂は 17 世紀末から 18 世紀初期頃、船岡観音堂の平成 2 丁目への移転を機に慈眼寺の観音堂として建築されたもので、それが棟札にある安永 5(1776) 年になって木津の地へ移築されたとするのが妥当である。

なお、安永 5(1776) 年の棟札にある大工の田中仁左衛門は、安永 3(1774) 年における慈眼寺観音堂の新築工事を請け負った田中仁左衛門と同一人であろう。

5. さいごに

小千谷市の建造物調査から明らかとなるのは以下の諸点である。

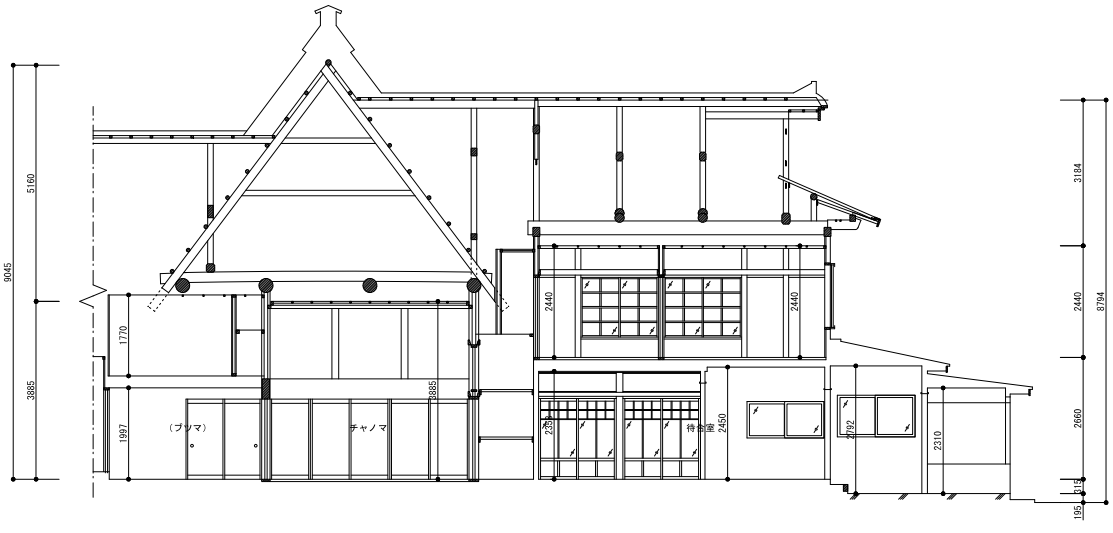
1) 小千谷市歴史的悉皆建造物調査では、641 件の歴史的建造物を見出した。
2) 小千谷市域で 61 棟の茅葺建物を確認したが、多くは中山間地に位置し、出現率は 0.5％とやや低かった。
3) 小千谷市域で 13 件 20 本の妻面に幣串を打ち付ける建物を確認した｡3 件が破風板留部分へ釘止めするもので、従来は確認されない形式であった。
4) 真人町の藤巻家住宅主屋は 18 世紀前期に遡る建物で、小屋組は上屋梁先端で合掌を枘差鼻栓止めとし、下先端を下屋へ片持ちとする前例を見ないものであった。
5) 木津三仏堂は 17 世紀末から 18 世紀初期頃、船岡観音堂の平成 2 丁目への移転を機に慈眼寺の観音堂として建築され、それが棟札にある安永 5(1776) 年になって木津の地へ移築された。

藤巻家住宅診療棟主屋 南より

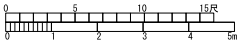
藤巻家住宅主屋ザシキ 南より

藤巻家住宅主屋小屋組 南より

撮影はいずれも田村収



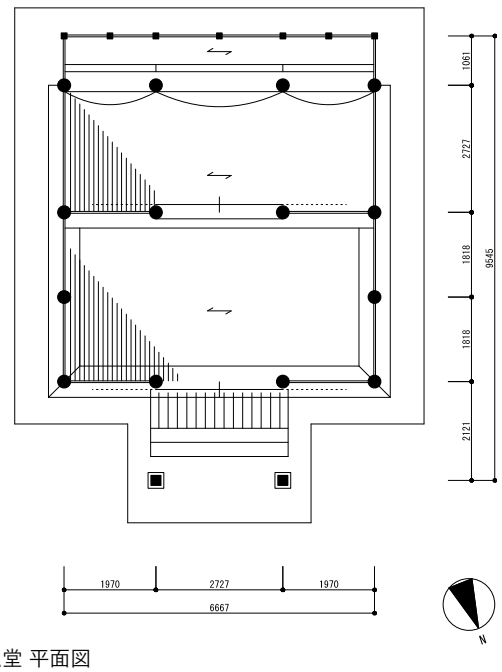
藤巻家住宅診療棟 主屋（梁行）面図



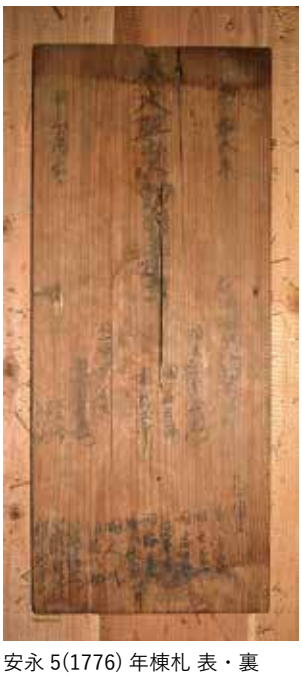
三仏堂 南より

三仏堂 組物詳細 北東より

三仏堂 内陣 北西より



三仏堂 平面図



安永 5(1776) 年棟札 表・裏

撮影は棟札を除き田村収

受託事業名：

清廣館建造物調査業務

発注者：株式会社清廣館
受託期間：平成 25 年 11 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日
プロジェクト主査：平山育男（建築・環境デザイン学科 教授）
プロジェクトメンバー：西澤哉子

※所属等はプロジェクト当時のもの

1. はじめに

阿賀野市出湯に所在する清廣館から本館建物についての調査依頼が長岡造形大学にあり、平成 25(2013) 年 11 月に建築調査を実施した。

本報告においは調査結果に基づき、本館建物について建築年代、平面の復原、改造などについて考察を加えるものである。

2. 出湯温泉と清廣館の概要

阿賀野市の出湯温泉は、五頭温泉郷に位置する。伝承によれば出湯は大同年間（806 ～ 09）年間、空海が発見したとされ、延応元（1239）年頃に開かれ、文明（1469 ～ 86）年間頃から広く効能が知れ渡るようになったとされる。

江戸時代においては出湯温泉において寛文 2(1662) 年における村上藩による制礼写に、入湯に際しての規制が記されることから、既にこの当時、広く湯治客を迎えていたものと考えられている。

聞き取りによれば、清廣館の創業は 300 年前に遡るとされ、明治 16(1883) 年の記録には既に “ 清廣館 ” の名前を見ることができる。

3. 清廣館本館の概要

・配置と形式，規模

出湯温泉は華法寺を中心に形成される温泉街となっている。

磐越自動車道の安田インターから国道 290 号を北上すると 15 分程で出湯の交差点に着く。そして、ここを起点とする県道 329 号線を東側に 400m 程進んだ突き当たりが華法寺となる。付近には公衆浴場が 2 軒開設されており、寺の周囲を温泉旅館が取り囲むように集落が形成されているが、寺域の北側に位置するのが今回、調査を実施した清廣館である。

本館は、集落を県道 329 号線からやや南に入り込んだ場所に位置し、背面は五頭山の丘陵へとつながる斜面となっている。敷地は南北 20 m程、東西 20 m程で、北東側が隣地へ食い込む形となり、ここに本館と新館が配されることとなる。

本館の平面は矩形となるが、屋根の納まりから見ると、東西に延びる本屋の東側に寄って角屋が納まる形式となっている。本屋部分の規模が、桁行 8 間 11.4 m、梁行 5 間半 10.3 m、角屋部分が桁行 6 間 10.9 m、梁行 4.5 間 8.2 mとなる。なお建物は 2 階、3 階の上層が減衰する。

本館の屋根は桟瓦葺で、妻部分をいずれも入母屋造とする。

・平面

北面する本館は、本屋の桁行に玄関を開いている。玄関を入って框を上がると背面まで続くロビーとなり、ロビーの東側には食堂が配され、和紙を貼った大きな建具で区切られる。ロビーの西側中央にフロントがあり、奥に旅館の歴史を示す展示場を置く。フロント以西の本屋は自家用もしくは厨房、機械室とする。フロントの背面が事務室、これらの裏に自家用の二室があり、角屋側は廊下を通して自家用の 3 室とする。2 階へは展示場裏の、本屋から張り出した階段で登ることとなる。

2 階では本屋側に 5 室、角屋に 3 室の客室を配する構成となる。本屋側は梁行中央に中廊下を設け、北東側 8 帖の 21 番室で床柱はフジ、続間で 6 帖の 23 号室では床柱をナツメとする。北東が 12 帖の 22 番室で床柱はタガヤサン、前室はサクラの床柱を持つ設いとなる。なおこの 3 室の表側には縁が配される。もと来た中廊下を挟んで北西が 6 帖の 25 番室でカエデの床柱、南西は 6 帖の 26 番室でビワの床柱で、この 2 室前に縁を配している。25 番室前の廊下を進むと角屋側へ至り、西側に便所がある。入隅部にカエデの床柱を持つ 8 帖の 27 番室、正面西側にタガヤサンの床柱を配する 6 帖の 28 番室、東側にスギの床柱を持つ 6 帖の 29 番室が置かれ、28 番室との境に便所が配される。

3 階へは 2 箇所の階段が設けられる。中廊下に配された階段を上ると、3 階の本屋東側は 31 帖半の大広間となり、床柱はタガヤサンとする。半間幅の中廊下を進み角屋側は、中廊下として 3 室を配する。入隅部が 4 帖半の 37 番室でタガヤサンの床柱、北西角は 6 帖でシタンの床柱を持つ 39 番室で脇に便所と階段が配され、西側は 4 帖半の 38 番室とする。なお､本屋中廊下を挟んで西側の 3 階へは、2 階中廊下の中程に設けられた階段で上る。北側が 6 帖の 35 番室でナツメの床柱、南側の 36 番室も 6 帖でカエデの床柱とする。

本館東側に接続する新館は一部を鉄筋コンクリート造とする木造の 3 階建である。新館の 1 階へは本館 2 階からの階段で下りる。浴室とこれに付属する脱衣室が 2 組設けられる。

新館 2 階は本館 2 階から接続し、北側に廊下があり、これに沿って 12 帖 2 室が連なる。

新館の 3 階は自家で用いられており、便所なども敷設される。

・構造

本館の 2、3 階では部屋が 0.4 尺角程、周家の縁には 0.35 尺角程の柱を用いる。

本屋部分の梁組は、桁行中央に 2 通しと、部屋 - 縁境の 4 筋に敷梁を配し、この上に原則 1 間間隔で小屋梁を京呂組で配する。なお、建物隅部及び中央付近に火打梁を配し、金具止とする。

小屋組は 3 重の和小屋組とし、挟梁による補強が梁行と一部の桁行にも見られる。

角屋部分も 3 階中廊下上に敷梁を 2 本配して梁を 1 間もしくは半間の間隔で配する京呂組で、要所に火打梁を打つ。小屋組は 2 重の和小屋組とする。

なお、小屋組においては番付を確認することができた。本屋の梁行では側筋から半間入った部屋境を「一」として、以後は半間間隔で「九」まで進む。桁行は 3 階西側側筋を「二」とするようで、以後半間間隔のようで「十三」までの数字が確認された。一方、角屋の桁行では、本屋との境を「る」、以後半間間隔で「た」までが確認された。梁行は、西側筋を「十三」とするようで以後半間間隔とするものであった。

4. 清廣館本館の建築年代及び復原考察

・建築年代

聞き取りによると、本館の建築年代は昭和 3(1928) 年とする。

今回の調査において建物から直接その資料を見いだすことはできなかった。但し、本屋側の中央付近の棟木には先端を尖らせた 4 本の竹製の幣串が見出された。恐らくこれらの幣串は、地鎮祭に用いられたものと考えることができよう。

なお、固定資産台帳の記載によると、本館の登録は大正時代とされるが、この建物は伝承される昭和 3(1928) 年の建築と見てよいであろう。

新館の建築は、聞き取りによれば昭和 35(1960) 年の建築とされる。

・復原考察

本館は昭和 50(1975) 年に、旧日観連への加盟を機に、内湯を設けることとなり、各客室の改造も大規模に行ったとする。

聞き取りと痕跡から判断すると当初の平面は次の様にように考えることができる。

1 階は内角となる北、西面に土間の回る写真が当館に残り、聞き取りによれば現在の食堂部分にもがかつては客室 3 室があり、フロント付近には 2 階への階段があったとされる。食堂が現状の姿に改造を受けたのは平成 20(2008) 年とする。

2 階は痕跡によれば本屋は中廊下に対し、更に桁行に現在の押入部分に半間巾の中廊下が十文字型に当初は配されていたという。つまり 21 番が 8 帖と 6 帖の 2 室に、24 番、25 番境の階段は廊下に復され、各室の部屋境は障子戸となる。

3 階も本屋は梁行と桁行の中廊下に復されるようで、2 階と同様に表裏とも 8 帖と 6 帖が各 2 室ずつに復されることとなる。つまり現状の大広間にするのに際して、この 4 室と桁行の中廊下、梁行の中廊下 1 間を取り込んだこととなる。

なお、3 階本屋の小屋裏では、和小屋に挟み梁を用いる仕様を見ることができたが、これらは広間への改造に伴い、大規模に柱を抜いたことによる補強と考えることができよう。

新館で大きな改造は見られない。

5. さいごに

阿賀野市出湯に所在する清廣館本館、新館の調査から明らかとなるのは以下の諸点である。

1) 清廣館本館の建築は伝承の昭和 3(1928) 年頃としてよいであろう。
2) 清廣館新館は聞き取りによれば昭和 35(1960) 年の建築とされる。
3) 本館は昭和 50(1975) 年頃に客室の大規模な改築を行い、現在見るような姿になった。当初、本屋部分では 2 階及び 3 階は桁行にも中廊下を配する続部屋に客室が復原される。

付言

阿賀野市出湯に所在する清廣館本館の建物は今回の調査などに基づいて、平成 26(2014) 年 10 月、国の登録有形文化財に登録された。

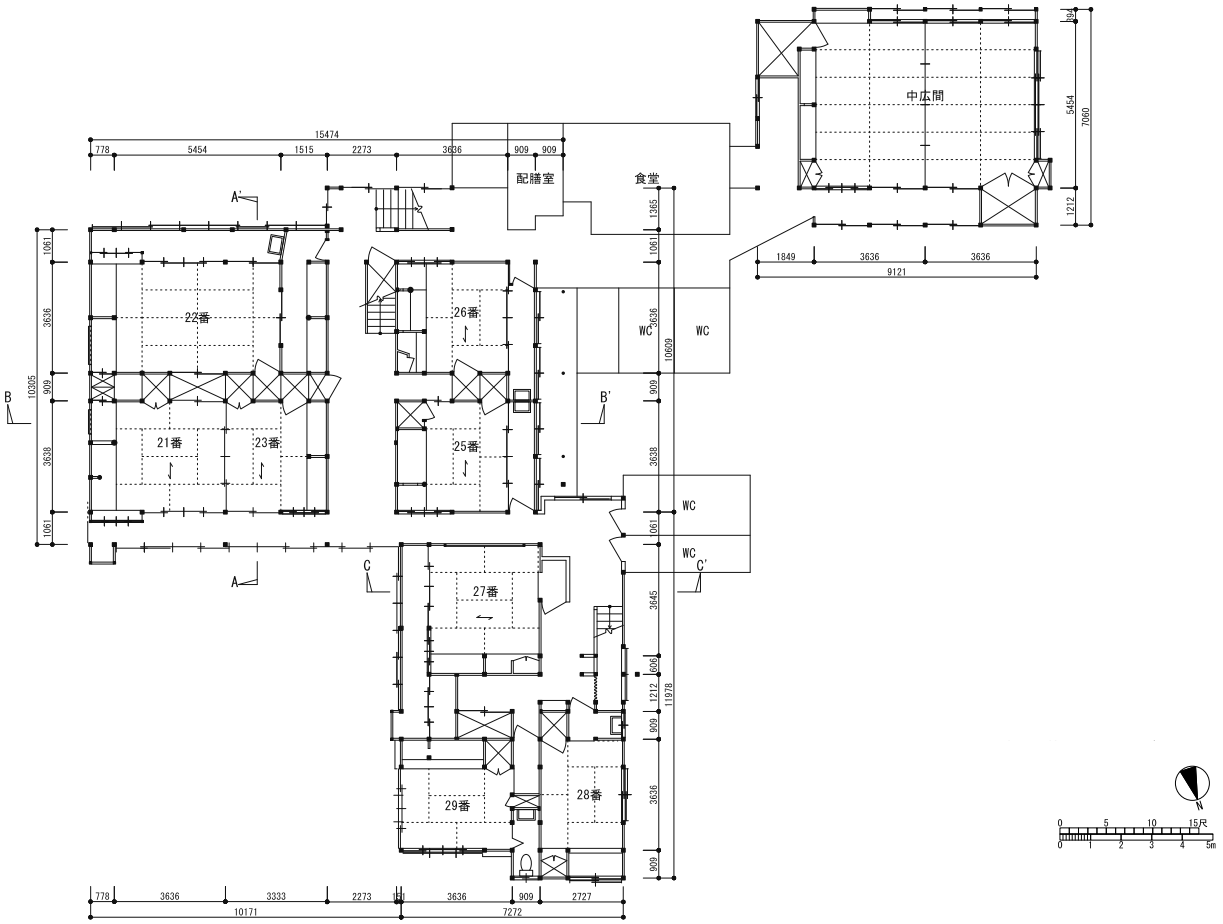
清廣館本館 北東より

撮影はいずれも田村収

清廣館本館 21 番室 西より

清廣館本館 22 番室 西より

清廣館本館 22 番前室 南より



清廣館本館 / 新館 2 階 平面図

清廣館本館 27 番室前廊下 北より

清廣館本館 26 番室 西より

清廣館本館 3 階大広間 西より

受託事業名：

歴史的建造物詳細調査業務委託

発注者：長岡市
受託期間：平成 25 年 8 月 23 日～平成 26 年 3 月 14 日
プロジェクト主査：平山育男（建築・環境デザイン学科 教授）
プロジェクトメンバー：西澤哉子

※所属等はプロジェクト当時のもの

1. はじめに

平成 25(2013) 年度に、長岡市からの依頼で長岡市与板町与板の恩行寺本堂、長岡市寺泊野積の高津家住宅主屋、長岡市小島谷の住雲園主屋、長岡市脇野町の中川家住宅主屋、醸造蔵の建築調査を実施した。本稿では調査から明らかとなった建物の来歴、建築年代などの報告を行う。

2. 長岡市与板町与板 恩行寺本堂

真宗大谷派の恩行寺は永禄 2(1559) 年の創建と伝えられる。信濃の小坂郷に所在したものを、川中島の戦乱を避けるため与板の町の南に当たる御蔵小路に付近に永禄 4(1561) 年に本堂を構えたという。それが与板藩による御蔵建設のため享保 5(1717) 年に現在の稲荷町に移転した。なお、境内の入口には長岡市指定の山門が立つ。この門は文政 6(1823) 年に建築された与板城の切手門を明治 4(1871) 年に移築したものである

東面する本堂は寄棟造で金属板葺平入の形式となる。建物の規模は桁行 10 間半、梁行 9 間である。本堂は、基本的には真宗本堂の形式をよく示し、内陣 (本間) の北側に右余間、南側に左余間を設け、この前に 1 間幅の下陣を配し、更に前方には参詣の間、正面中央に 2 間半巾の向拝を構える。そして、右余間の北側に床と棚を奥に構える 12 帖の御堂の座敷がある。なお、内陣背面に後ろへ抜ける後門があり、背面に巾 1 間の後堂を配する。また、本堂の正面東側と南側に巾半間の浜縁が回される。左余間の南には回廊が付され便所、御堂の座敷北にも縁があり便所を配する。

なお、参詣の間中央天井に描かれる竜の墨絵は、恩行寺 20 代の東州が享和元 (1801) 年に描いたもので、長岡市有形文化財とされる。

建物からは本堂の建築年代を直接示す 1 次資料は発見されなかった。但し、恩行寺には享保 5(1720) 年の年号を有す “ 御堂建立頼母子奉加金年々指引帳 ” が残り、寺伝ではこの享保 5(1720) 年を建築の年代とする。本堂に残される彫刻絵様は 18 世紀前期と考えられるため、この寺伝はおよそのところで肯首はできるものの、史料名から考えてやや疑問が残るところである。資料は再建に当たっての資金調達開始を示すもので、厳密に言えば上棟の年代はこれよりもやや下ると見るのが妥当であろう。本報告では一応、この資料の年代を尊重し、享保 5(1720) 年頃の建築と記しておく。

3. 長岡市寺泊野積 高津家住宅主屋

高津家は、長岡市でも日本海に面し最北端の地となる長岡市寺泊野積地区に位置している。周辺は夏期、最寄りの海岸が海水浴場として用いられることもあり、現在当家ではこの主屋などを用いて民宿を経営している。高津家ではもともと漁業、農業、杜氏など多角的な経営を行っていたとされる。

住宅敷地は地域を南北に縦貫する旧道に西面して位置する。敷地に面しては増築した民宿の建物が面し、その背面に茅葺の主屋が位置する。主屋は旧道から 40m 程奥まって位置する。形式は入母屋造平入となるもので、西側下手にミズヤが角屋の形式で接続する。規模は正面の桁行 7 間半、梁行 4 間半で正面側に幅 3.5 尺程の下屋を持ち、下手表側に桁行 2 間、梁行き 1 間半となるミズヤを角屋の形式で付属する。

主屋は向かって左側、街道側となる西側に入口を設ける左勝手となる。現状では 4 室が田の字型に配され、下手のミズヤは厨房として用いられる。

主屋からは建築年代を記す 1 次資料は見出されなかった。但し、チャノマ背面上手側の柱表面に札が和釘止めされていたものの判読は叶わなかった。伝承では築 350 年とされる。根拠は明らかではないが過去帳における記載で最も遡るものが元禄年間であることにもよるのであろう。材の仕上げ、差物材の利用などを考慮すると現在の建物がそこまで遡るとは考えることは難しい。但し、上屋柱の省略が表側では見られず、背面などに限られる点などを考慮すると 18 世紀中期頃の建築と見てよいだろう。

なお、主屋は当初、4 室のネマを持つ構成で、上手のものが最も整備され、家長の部屋と判断される。

4 . 長岡市小島谷の住雲園主屋

住雲園主屋は久須美家 16 代の六左衛門政信が享保 2(1717) 年に造園した弥彦山を借景とする庭園の南側に配される建物である。住雲園は昭和 12(1937) 年、長岡出身の貿易商、池田直吉に譲られた。池田は池田育英会を設立し後進の育成に寄与したが、会は平成 17(2005) 年に解散し、資産の一部は長岡市米百俵財団へ引き継がれ、住雲園の建物は平成 3(1991) 年、長岡市へ寄贈された。

主屋の構成は、間口 14 間程で 25.1 m、奥行は 10 間程で 17.7 mとなる。建物は東面する玄関、台所がある南北方向に棟を配する寄棟造桟瓦葺の建物の北側に東西方向に

棟を配する入母屋造桟瓦葺の建物が直交し、更にこの背面の北側へ入母屋造桟瓦葺の建物が接続する、やや複雑な平面となる。

主屋から建築年代を示す 1 次資料は見出されなかった。但し主屋は後述のように、背面の和室部分が 1、2 階とも階高が極めて低く、表側の洋室、玄関以南の部分が改築を受けている。この建物では大正 2(1913) 年に越後鉄道の開通を祝う園遊会、大正 9(1920) 年には秀三郎の古希祝がこの庭で行われている。特に後者については会場の略図が残されており、建物の輪郭線は現状の和室部分をほぼ正確に示すことから、遅くともこれらの時期よりやや遡る明治時代末までには和室部分の建築がなされたものと考えることができよう。

一方、洋室を中心とする部分は一度火災に遭い、池田家の所有になってから改造があったとされるが、その伝承通りであれば、洋室以南の部分は昭和 12(1937) 年以後の建築と言える。

5. 長岡市脇野町中川家住宅主屋、醸造蔵

・主屋

中川家は江戸時代後期頃にはこの地において両替商を行い、醸造業は明治 21(1888) 年 5 月における脇野町の火災後になって丸山吉五郎の酒造株を買い取り創業し「倭泉」、「白雁」の醸造を始めたとされる。

中川家住宅の敷地は間口南北 45 m程、奥行は東西 50 m程である。会社の本社屋が街道の東側、醸造蔵がこれに対面して建ち、住宅は本社の北側に位置する。住宅は街道に面して板塀を構え、門が開かれる。建物はこの門奥に配され、主屋、離れ座敷、土蔵、住宅棟などから構成される。主屋本屋の形式は切妻造妻入桟瓦葺 2 階建、座敷部は切妻造金属板葺平屋､離れ座敷は入母屋造桟瓦葺平屋とする。

主屋建物からは建築年代を直接示す 1 次資料は見出されなかった。但し、家伝で主屋本屋部は明治 21(1888) 年の脇野町火災後の建築とされる。主屋本屋部の建物では小屋組母屋材に焦げが一部で見出さた。そのため主屋の本屋部は当家に伝承されて来た明治 21(1888) 年頃の建築と見てよいであろう。また、座敷部は修理の際、小屋裏から大正時代の年紀を持つ札が見出されたとされる。座敷部では主屋本屋部、離れ座敷とは異なる体系をもつ番付が見出されたことから、少なくとも小屋組はこの時代の建築に関わるものと判断される。そして、離れ座敷は昭和時代初期の建築と伝わるが、中川家に残る建築資料に、“ 六年八月六日 ” の年紀を有するものが見出された。このため資料群は、昭和 6(1931) 年頃の建築と判断することができる。なお、家伝では昭和時代初期に主屋本屋背面離れの建築も行ったとする。

・醸造蔵

醸造蔵のある会社の敷地規模は間口南北 40 m程であるが背面は 50m 程に広がり、奥行は東西 60 m程である。会社本社屋が街道の東側、醸造蔵がこれに対面し西側に置かれる。会社の敷地は街道に面して事務所棟と大正蔵が妻面を街道に向ける。大正蔵の背面に鉄筋コンクリート造の醸造蔵を介して明治蔵を置く。また、明治蔵の北側に昭和蔵が配される。明治蔵は切妻造金属板葺で、規模は梁行 4 間、桁行 15 間と長大なものとなる。大正蔵は間口となる梁行が 4 間半、桁行が 11 間、北側に鉄骨造で下屋により梁行 5 間、奥行 12 間となる瓶詰場などを設ける。

明治蔵からは建築年代を直接示す 1 次資料は見出されなかった。但し、家伝によると醸造蔵は明治 21(1888) 年の脇野町火災後の建築とされる。なお、建物からは和釘が見出されなかったため、明治時代中期以後、即ち家伝にある建築年代頃の建築で増築が後にあった。また、大正蔵からも建築年代を示す資料は見出されなかったが、主屋における大正時代の建築に前後した時期が想定される。

6. さいごに

平成 25(2013) 年度における長岡市の建造物調査から明らかとなった点は以下の通りである。

1) 長岡市与板町与板の恩行寺本堂は享保 5(1720) 年頃の建築と考えられる。
2) 長岡市寺泊野積の高津家住宅主屋は 18 世紀中期頃における建築で、4 室のネマを持つ漁家の住宅として復原される。
3) 長岡市小島谷の住雲園主屋は明治時代末までに和室部分が、洋室は昭和 12(1937) 年以後に建築された。
4) 長岡市脇野町の中川家住宅主屋本屋は明治 21(1888) 年頃、座敷部は大正時代、離れ座敷は昭和 6(1931) 年頃の建築と考えられる。

醸造蔵は明治蔵が明治 21(1888) 年の脇野町火災直後の建築で増築が後にあった。大正蔵の建築は主屋座敷に前後した時期が想定される。

恩行寺本堂 東より

恩行寺本堂 外陣 / 参拝の間 北より

恩行寺本堂　内陣を望む 東より

撮影は※を除き田村収

高津家住宅主屋 北西より

住雲園 外観 東より

住雲園 2 階より庭園を望む 南西より

住雲園 洋室 南より

中川家住宅主屋 外観 西より

中川家住宅主屋 離れ座敷 北東より

中川酒造 外観 南東より※

中川酒造 明治蔵 西より※

今後のデザイン開発研究について

長岡造形大学は平成 26 年度より公立大学法人となりました。前身であるデザイン研究開発センターでの受託研究プロジェクトはデザイン制作と調査、コンサルティングが中心でした。平成 26 年度以降は公立大学法人の社会連携と知的財産取り扱いの考え方に基づいて、今後のデザイン開発研究について整理していきます。

クライアントの依頼目的と依頼内容

クライアントの目的は営利と非営利に分けられます。

営利目的には
・調査・研究
・事業アイデア発想
・商品企画・開発
・事業実施
・検証、等

非営利（公益）目的には
・調査研究
・コンサルティング
・まちづくり、地域づくり、メセナ活動、等

依頼内容には
・調査・アンケート
・実験、分析
・文化財調査
・コンセプト提案
・商品企画
・商品デザイン制作、試作
・イベントプロデュース
・広報物デザイン制作
・広報用作品提供

等が考えられます。これらの目的と依頼内容の種別をもとに学内調整を図り対応体制を提案していきます。

想定されるクライアント

・国・自治体
・公益法人
・企業
・任意団体
・個人　など

社会連携形態の調整

社会連携依頼の内容に対応して以下の種別や連携形態が考えられます。

1. 教育（連携形態：アクティブラーニング、インターンシップ）
2. 研究（連携形態：共同研究、受託調査研究）
3. 収益事業（連携形態：請負業務、大学知財利用許諾、学生知財利用許諾）
4. 紹介（連携形態：コンペ公募告知、アルバイト・ボランティア募集告知）

デザイン開発研究に関する相談は地域協創センターが一括窓口となっています。センターでは、依頼・相談内容に応じて上記のような整理のもとに連携形態を学内調整していきます。

プロジェクト担当教員

プロダクトデザイン学科

教授

鈴木 均治 Kinji Suzuki

専門分野／テキスタイルデザイン（模様染）
現在の研究課題／型紙捺染におけるマチエールの研究
最終学歴＋資格／東京造形大学造形学部デザイン学科

視覚デザイン学科

教授

阿部 充夫 Mitsuo Abe

専門分野／写真
現在の研究課題／写真を使用した画像表現
最終学歴＋資格／東京写真専門学校商業写真科

視覚デザイン学科

教授

山本 敦 Atsushi Yamamoto

専門分野／グラフィックデザイン，広告全般，ブランディング
現在の研究課題／地域資源を活用したブランディングデザインの可能性の探究
最終学歴＋資格／専門学校桑沢デザイン研究所グラフィックデザインII科

プロダクトデザイン学科長

教授

土田 知也 Tomoya Tsuchida

専門分野／プロダクトデザイン
現在の研究課題／プロダクトデザイン全般
最終学歴＋資格／千葉大学大学院工学研究科修士課程（工学修士）

視覚デザイン学科

教授

天野 誠 Makoto Amano

専門分野／グラフィックデザイン（エディトリアルデザイン）
現在の研究課題／エディトリアルデザイン
最終学歴＋資格／専門学校桑沢デザイン研究所グラフィックデザイン研究科

視覚デザイン学科

教授

ヨールグ ビューラ Jörg Bühler

専門分野／映像，マルチメディア，アート教育
現在の研究課題／1 映像・動画，コンピュータ関係のアート 2 情報を伝えるためのヴィジュアル表現，特に地図，科学，日常のための記号学
最終学歴＋資格／バーゼル美術学校芸術教育専攻（スイス），高等芸術教員免許取得

学長

教授

和田 裕 Hiromu Wada

専門分野／トランスポーテーションデザイン
現在の研究課題／トランスポーテーションデザイン，造形のセオリー，エスキースによる創造能力の向上
最終学歴＋資格／東海大学教養学部芸術学科

プロダクトデザイン学科

教授

増田 譲 Yuzuru Masuda

専門分野／プロダクトデザイン
現在の研究課題／3DCAD 3D プリンターを活用したパーソナル・ファブリケーション，新しい 3D 入力デバイスの研究
最終学歴＋資格／多摩美術大学デザイン科立体デザイン専攻プロダクト専修卒業，慶應義塾大学政策・メディア研究科 XD プログラム後期博士課程在学中

視覚デザイン学科

学務部長
図書館長
教授

長瀬 公彦 Kimihiko Nagase

専門分野／グラフィックデザイン，イラストレーション
現在の研究課題／視覚表現の可能性の探究
最終学歴＋資格／東京藝術大学美術学部デザイン科，School of VISUAL ARTS, Fine Arts (NewYork)

視覚デザイン学科

准教授

池田 光宏 Mitsuhiro Ikeda

専門分野／ヴィジュアルアート，コミュニケーションデザイン
現在の研究課題／パブリックスペースにおけるアートプロジェクト
最終学歴＋資格／東京藝術大学大学院美術研究科デザイン専攻

プロダクトデザイン学科

教授

菊池 加代子 Kayoko Kikuchi

専門分野／テキスタイルデザイン（織）
現在の研究課題／ダマスク織機を用いた作品制作，Mariano Fortuny デルフォスドレス復元研究，『長岡造形大学草木染色図鑑』作成
最終学歴＋資格／多摩美術大学デザイン科染織デザイン専攻織専修

プロダクトデザイン学科

研究推進部長
教授

森田 守 Mamoru Morita

専門分野／知的財産権制度の内，意匠法
現在の研究課題／大学教育における知的財産・デザイン保全
最終学歴＋資格／東海大学教養学部芸術学科，弁理士法第 7 条に規定する弁理士登録資格

視覚デザイン学科

入試部長
教授

長谷川 博紀 Hiroki Hasegawa

専門分野／グラフィックデザイン，広告全般，イラストレーション
現在の研究課題／イラストレーション
最終学歴＋資格／東京藝術大学美術学部デザイン科

視覚デザイン学科

准教授

吉川 賢一郎 Kenichiro Kikkawa

専門分野／グラフィックデザイン
現在の研究課題／コミュニケーションデザインにおける機能美と形態美の探究，本質を見極めたヴィジュアルアイデアの発想と表現について，地域の伝統的な祭りにおける紙と絵具で作られた立体物の素材と制作の研究
最終学歴＋資格／多摩美術大学美術学部デザイン科グラフィックデザイン専攻

プロダクトデザイン学科

教授

齋藤 和彦 Kazuhiko Saito

専門分野／インダストリアルデザイン
現在の研究課題／パーソナルトランスポーテーションとその造形表現手法
最終学歴＋資格／武蔵野美術大学造形学部工芸工業デザイン学科

プロダクトデザイン学科

准教授

金澤 孝和 Takakazu Kanazawa

専門分野／プロダクトデザイン（家具・生活小物）
現在の研究課題／必然から導かれるデザインの在り方について　小規模伝統的産地の活路を開くために最適な支援システムの構築
最終学歴＋資格／東京造形大学造形学部デザイン学科

視覚デザイン学科

教授

アンドリュー バン ゴーサム Andrew Van Goethem

専門分野／TESOL - Teaching English to Speakers of Other Languages
現在の研究課題／Fossilization: "Empty Categories" Assisting, Larry Selinker (England) Sociolinguistics and Language Teaching Observation and Discourse Analysis
最終学歴＋資格／Masters Degree: TESOL, Temple University, Tokyo, Japan 1998 B.S.Degree: University of Wisconsin Stevens Point, 1983

視覚デザイン学科

准教授

真壁 友 Tomo Makabe

専門分野／メディアアート，デジタルファブリケーション
現在の研究課題／デジタル機器を活用した素材の加工及び、それを使った表現
最終学歴＋資格／東北学院大学大学院工学研究科応用物理学専攻（工学修士）

プロダクトデザイン学科

教授

境野 広志 Hiroshi Sakaino

専門分野／プロダクトデザイン
現在の研究課題／機器操作に関する認知的研究
最終学歴＋資格／千葉大学大学院工学研究科修士課程（工学修士）

プロダクトデザイン学科

准教授

川越 ゆかり Yukari Kawagoe

専門分野／服飾・衣装デザイン・製作
現在の研究課題／持続的コミュニケーションツールとしてのファッション
最終学歴＋資格／文化服装学院服飾専門課程服装科

視覚デザイン学科長

教授

松本 明彦 Akihiko Matsumoto

専門分野／写真
現在の研究課題／写真を用いたアート表現
最終学歴＋資格／武蔵野美術大学造形学部基礎デザイン学科，慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科後期博士課程在学中

視覚デザイン学科

准教授

御法川 哲郎 Tetsuro Minorikawa

専門分野／イラストレーション
現在の研究課題／イラストレーションによるヴィジュアルコミュニケーション
最終学歴＋資格／多摩美術大学美術学部グラフィックデザイン学科

視覚デザイン学科

准教授

山田 博行 Hiroyuki Yamada

専門分野／写真，映像
現在の研究課題／写真的アプローチの映像表現の探求
最終学歴＋資格／武蔵野美術大学造形学部映像学科

美術・工芸学科

学部長
研究科長
教授

馬場 省吾 Shogo Baba

専門分野／金属工芸（鍛金造形）
現在の研究課題／鍛金・鎚起技法による素材と造形，表現の展開及び応用
最終学歴＋資格／東京藝術大学大学院美術研究科鍛金専攻修士課程（芸術学修士）

美術・工芸学科長

准教授

長谷川 克義 Katsuyoshi Hasegawa

専門分野／金属工芸（鋳金）
現在の研究課題／鋳金技法による器物造形の探究及び古代鋳造技術の研究
最終学歴＋資格／東京藝術大学大学院美術研究科工芸専攻（鋳金）修士課程（美術修士）

建築・環境デザイン学科

教授

菅原 浩 Hiroshi Sugahara

専門分野／表象文化論，比較文化論，外国語教育
現在の研究課題／想像力を起点とした「意識構造＋世界構造」の探究
最終学歴＋資格／東京大学大学院総合文化研究科比較文学・比較文化専攻博士課程（学術修士）

視覚デザイン学科

助教

金 峯洙（キム ボンス） Bongsu Kim

専門分野／グラフィックデザイン，紋章・しるし文化，内発的発展論に基づく地域開発計画
現在の研究課題／伝統的なしるし文化に基底した地域の内発的発展の探究，燕地域金属洋食器の模様に対する調査分析
最終学歴＋資格／千葉大学大学院工学研究科デザイン科学専攻博士課程（学術博士）

美術・工芸学科

教授

結城 和廣 Kazuhiro Yuki

専門分野／美術科教育，総合学習
現在の研究課題／「発想・構想・表現・鑑賞における指導過程の類型化」，「教材開発の視点」，「児童画を読み解く鑑賞法」
最終学歴＋資格／弘前大学教育学部，小学校教諭一種免許，中学校教諭美術一種免許，高等学校教諭美術一種免許

建築・環境デザイン学科

キャリアデザインセンター長
教授

上野 裕治 Yuji Ueno

専門分野／ランドスケープデザイン，生物棲息環境
現在の研究課題／農村景観保全計画，物語性のあるランドスケープデザイン
最終学歴＋資格／東京農業大学大学院農学研究科環境共生学専攻修了，博士（環境共生学），技術士（建設部門），登録ランドスケープアーキテクト，樹木医

建築・環境デザイン学科

教授

平山 育男 Ikuo Hirayama

専門分野／建築史，民家史，社寺建築，水道史，文化財の保存・修復
現在の研究課題／建築物はどのようにして建てられてきたのか
最終学歴＋資格／早稲田大学大学院理工学研究科建設工学専攻博士課程，博士（工学），博士（造形）

美術・工芸学科

教授

石原 宏 Hiroshi Ishihara

専門分野／西洋美術史
現在の研究課題／西洋中世美術史
最終学歴＋資格／早稲田大学大学院文学研究科芸術学専攻博士後期課程満期退学（文学修士）

美術・工芸学科

准教授

岡谷 敦魚 Atsuwo Okanoya

専門分野／版画（銅版，リトグラフ，木版）
現在の研究課題／現代版画の可能性の探究
最終学歴＋資格／武蔵野美術大学造形学部油絵学科版画コース銅版画専攻，東京藝術大学大学院美術研究科芸術学美術教育専攻

建築・環境デザイン学科

教授

江尻 憲泰 Norihiro Ejiri

専門分野／建築構造
現在の研究課題／新素材の建築構造への応用，制震等
最終学歴＋資格／千葉大学大学院工学研究科（工学修士），一級建築士，構造一級建築士，JSCA構造士

建築・環境デザイン学科

教授

山下 秀之 Hideyuki Yamashita

専門分野／建築意匠・建築設計
現在の研究課題／自然のグローバルシステムに呼応する建築のヴィジョンを，独創的なモデルによって提示すること
最終学歴＋資格／東京工業大学大学院理工学研究科修了，一級建築士
http://www.ae-lab.com/

美術・工芸学科

教授

遠藤 良太郎 Ryotaro Endo

専門分野／絵画
現在の研究課題／絵画空間の輪郭線とタッチ。絵画性の獲得の諸条件。藝術の役割，社会と人類について。絵画論
最終学歴＋資格／東京藝術大学大学院博士課程（後期）美術研究科絵画専攻（油画） 博士（美術）

美術・工芸学科

准教授

小林 花子 Hanako Kobayashi

専門分野／彫刻
現在の研究課題／木を基本素材とした立体表現の探究，美術の社会へのかかわりと可能性の探究
最終学歴＋資格／愛知県立芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了

建築・環境デザイン学科

教授

川口 とし子 Toshiko Kawaguchi

専門分野／建築・インテリア・プロダクトのデザイン
現在の研究課題／建築再生，グローバル・リージョナルな建築のあり方
最終学歴＋資格／日本大学大学院理工学研究科建築学専攻博士前期課程，一級建築士，管理建築士

建築・環境デザイン学科長

教授

森 望 Nozomu Mori

専門分野／ディスプレイデザイン
現在の研究課題／展示デザインの基礎データに関する研究
最終学歴＋資格／多摩美術大学美術学部建築科，一級建築士

美術・工芸学科

教授

大森 修 Osamu Omori

専門分野／言語技術教育，特別支援教育
現在の研究課題／指導技術
最終学歴＋資格／新潟大学教育学部

美術・工芸学科

准教授

手銭 吾郎 Goro Tezeni

専門分野／金属工芸（鍛金）
現在の研究課題／金属工芸における鍛金技法及び篦絞り技法による造形表現の探求と技術の研究
最終学歴＋資格／東京藝術大学大学院美術研究科修士課程工芸専攻（鍛金）修了

建築・環境デザイン学科

教授

木村 勉 Tsutomu Kimura

専門分野／建造物保存修復
現在の研究課題／保存修復の考え方と方法，保存修復技術，近代遺産の保存と活用，歴史地区における修復・修景
最終学歴＋資格／静岡県立静岡工業高等学校建築科，博士（工学）

建築・環境デザイン学科

地域協創センター長
教授

渡辺 誠介 Seisuke Watanabe

専門分野／都市計画，観光まちづくり
現在の研究課題／JR東日本がきっかけになった長岡市摂田屋地区まちづくり，長期未着手都市計画道路に関する研究，市街化調整区域内での農村景観に関する研究，空き家の活用方法に関する研究
最終学歴＋資格／東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻博士課程（工学博士）

美術・工芸学科

教授

菅野 靖 Yasushi Kanno

専門分野／金属工芸（彫金）
現在の研究課題／金属と仲良くなること
最終学歴＋資格／東京藝術大学大学院美術研究科彫金専攻修士課程（芸術学修士）

美術・工芸学科

准教授

中村 和宏 Kazuhiro Nakamura

専門分野／ガラス工芸
現在の研究課題／サステナブル（＝持続可能）な社会における，ガラス工芸素材による，造形からの展開と可能性の探究
最終学歴＋資格／財団法人金沢卯辰山工芸工房工房技術研修員

建築・環境デザイン学科

教授

後藤 哲男 Tetsuo Goto

専門分野／建築・都市設計
現在の研究課題／木構造における空間の設計方法に関しての研究と実践，パリ都市建設における空間の設計方法に関する研究
最終学歴＋資格／東京大学工学部都市工学科，同大学院修了（工学博士），パリ，エコール・デ・ボザール第６分校卒業，フランス政府公認建築家（Architecte D.P.L.G），一級建築士

建築・環境デザイン学科

地域協創センター副センター長
准教授

澤田 雅浩 Masahiro Sawada

専門分野／都市計画，地区防災
現在の研究課題／流動性と多様性に着目した地域計画策定手法
最終学歴＋資格／慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科後期博士課程，博士（政策・メディア）

デザイン開発研究の相談について

① 相談の受付

地域協創センターにて電話等で
随時受け付けています。
電話　　0258-21-3321
E メール　chiiki@nagaoka-id.ac.jp

② 内部協議～両者打ち合わせ

頂いた相談内容をセンターで把握し、打合せにて詳細内容を再度お伺いいたします。
その後、ご相談内容に沿った最も適切な方策をご提案いたします。

デザイン開発研究として教員が業務にあたる場合は、民間企業では業務の遂行が難しいと思われる業務を対象としています。以下がその内容となります。

① デザイン、設計、企画等に対するコンサルタント
② 技術者に対する高度技術の教育及び研修
③ 学術情報の提供（調査含む）
④ 共同研究・共同開発

なお、民間企業の業務を阻害するデザイン・設計作業（完成品の納品）はデザイン開発研究の対象外としますが、業務の専門性が高く、県内企業では対応ができないと思われるものは相談・対応を検討します。

また自治体、NPO 法人、各種団体などからの非営利での依頼についてはデザイン・設計・知財処理作業も含め相談に応じます。

※その他、学生を交えた研究等を希望される場合は、大学が教育効果が高いと判断した場合に授業として教員と学生がプロジェクトに関わることもあります。

③ 主査の決定～業務委託契約

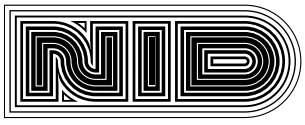
ご相談内容に応じて本学教員の中から適任者（主査）を決定します。業務の方法、期間、予算等について、両者で協議を重ね、業務委託契約を締結し、業務がスタートします。ただし、授業その他の学事が優先されますのでご了承ください。

④ 成果物等の提出・業務終了

成果物等を提出し、委託元の検収後、業務終了となります。

長岡造形大学デザイン研究開発センター
1994 − 2013
発行日：平成 27 年 3 月 31 日
発　行：長岡造形大学地域協創センター
940-2088 新潟県長岡市千秋 4 丁目 197 番地
Tel. 0258-21-3321　Fax. 0258-21-3343
URL http://www.nagaoka-id.ac.jp/
E-mail chiiki@nagaoka-id.ac.jp

本書の図版及び文章の無断転載を禁じます。
©2015 Nagaoka Institute of Design
長岡造形大学デザイン研究開発センターのこれまでの活動報告については
上記 URL からご覧いただけます。



公立大学法人
長岡造形大学
Nagaoka Institute of Design